

六 中国輸入税率改正一件 二一八

二一八 十二月二十九日 加藤外務大臣ヨリ
在中国日置公使宛

中国政府ノ関税無条件改修ノ要請ニ対スル措

置振回訓ノ件

通機密送第四一六号

本件ニ関シ今回重ネテ外交総長ヨリ無条件ニテ同意ヲ望ム
旨照会越タル趣本月十五日附機密第五三〇号貴信ヲ以テ御
報告相成リ了承支那関税改修ニ対スル当方提案ハ我貿易関

三五〇

係ニ及ボス影響ヲ慎重打算シタル外支那側ノ立場ヲモ十分
考量ニ入レタル上双方ニ取り最モ利便ト認メタル結果提示
セル条件ニシテ之ヲ撤回スル如キハ当方ニ於テハ到底応諾
スル不能所ニ有之候間今後先方ヨリ本件ニ関シ更ニ回答ヲ
求メ来リ候場合ニハ右ノ趣旨ヲ以テ可然御応酬相成度此段
及回訓候也

事項七 中国鉱業条例ニ関スル件

附 桃冲鉄山ト鉄鉱国有問題

二一九 三月二日 在奉天落合総領事ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

中国ノ鉱業条例改正ノ場合速カニ南滿東蒙鉱
山ノ先願權取得方ニ関シ山座公使ヨリ稟申ノ
件

第三四号

北京発三月一日第二〇号

第一八一号

二月廿七日小田切カ農商部鉱政局長楊廷棟ヨリ聞ク所ニ拠
レハ支那政府ハ今般鉱業条例ヲ改正シ外国人ト合資合弁ニ
便利ナル様例ヘハ外人出資額ノ限度ヲ二分ノ一迄トシ且ツ
支那側ノ二分ソ一モ株券ヲ無記名式トシ以テ外国人ノ所有
ニ差支ナキコトトナス等余程「リベラル」ナル規定ヲ設ク
ルコトニ閣議決定シ不遠公布スル筈ナル由ナリ

然ルニ落合往電ニテ御承知アルヘキ通り奉天借款交渉ノ模
様ニテハ今回ノ借款纏マルトモ鉱業ニ関スル利権ヲ全然我

ニ收ムルコトハ頗ル困難ナラント思ハル、ニ付此際南滿東
蒙ノ有望ナル鉱山ニ対シテハ關係筋トモ御協議ノ上右条令
發布後速カニ出願シ先願權ヲ占メ置クコト必要ナラント思
料ス

二二〇 三月三日 在奉天落合総領事ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

近ク發布セラルル鉱業条例ト外国人ノ治外法
權トノ關係ニ付北京外交団ノ意向問合ノ件

第三六号

三月三日北京ヘ左ノ通

第一二号

貴電第二〇号ニ関シ当地方ニ於テ鉱山ニ関スル日支合弁ヲ
企テ居ルモノ多ク中ニハ当地支那官憲ヨリ北京政府ヘ認可
申請中ノモノアリ然ルニ北京政府ハ現行鉱務章程ニ照シ当
該關係者カ同章程ヲ切実ニ遵守スル旨日本領事ヨリ公文ヲ
以テ保証スルコトヲ要求シ来ル由ノ処右ハ畢竟当該事業ニ

関シテハ本邦人ト雖支那法権ノ治下ニ服セシムルコト、ナルヲ以テ我方ニテハ斯ル問題ニ触レシテ解決ノ途ヲ求メシコトヲ攻究シ居リ此一点ノ為合弁事業ノ成立困難ナル姿ナリ尚北京外交団モ現行鉱務章程ヲ承認シ居ラサル趣ニ聞及ヒ居タルカ右ハ如何ニナリ居レルヤ又今回発布セラレントスル鉱業条例ニテハ此点如何ナルヘキヤ本件ハ当地ニ於テハ差当リノ必要アルノミナラス目下交渉中ノ借款ノ附帯条件処理ニモ重大ノ関係アルニ付何分ノ義電報アリタシ

二二二 三月十二日 在中国山座公使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

中国新鉱業条例ノ要点報告ノ件

第二〇六号

三月十一日附大統領令ヲ以テ鉱業条例公布セラレタルカ要点ハ条約國ノ人民ハ公使領事ヲ經テ本条例及關係ノ諸法律ヲ遵守スルコトヲ証明セハ支那人ト合資シテ鉱業權ヲ取得スルコトヲ得其ノ出資額ハ全資本ノ十分ノ五ヲ越ユルヲ得ス石油食塩ハ官業トシテ之レヲ除外シ鉱區ハ六十丈四方ヲ一畝トシ五百四十畝ヲ一方里トシ石炭ハ二百七十畝以上十方里其ノ他ノ鉱物ハ五十畝以上五方里ヲ以テ一區トシ鉱

セス

露国公使 支那人ト合辦ニ非サレハ許サス且外国人ヲシテ支那ノ法權ニ服セシムル如キ結果ヲ生スル法規ヲ承認スル能ハス

米国公使 支那ガ自国鉱山ヲ開發スル為ノ法規ニ付合辦其他ノ条件ニ付テハ異存ヲ言フヘキ限ニ在ラサレトモ第九十三条ノ如ク鉱山監督署ノ裁決ニ依リテ外国人ノ爭議ヲ決定スルカ如キハ条約違反ニ付承認スル能ハス

伊国公使ハ既ニ第四条ノ証明書ヲ發給シタル由併シ条例ニ對シテハ抗議スヘシト云ヘリ

蘭国公使モ第四条ノ証明書ヲ既ニ發給セリ併シ subject of the extraterritorial right トノ意味ノ文句ヲ証明書中ニ記載セシ由

右ノ如ク多少程度ノ差コソアレ今回ノ鉱業条例ヲ不満足トシ之ニ對シ抗議セントノ意向ハ略ホ一致シタルニ付四月二日外交団會議ニ於テ(露国公使發議)ハ該条例ノ規定ハ尠クトモ条約ニ違反スル点アリトノ理由ヲ以テ抗議スルコトニ決スヘシト予想セラル

右抗議ニハ本使モ亦同意スル外ナカラント思考スルモ支那

七 中国鉱業条例ニ関スル件 二二三

業權ハ不分割ニシテ承継譲与滯納処分及強制執行ヲ除クノ外權利ノ目的物トナスヲ得ス但シ採鉱權ハ抵当ノ目的トナスコトヲ得鉱業權ヲ抵当トシテ借款ヲ為スニハ農商總長ノ許可ヲ得サレハ効力ヲ生セス試掘期限ヲ二年ト定メ鉱區稅ハ金屬及石炭類ハ一畝三十仙石炭類ハ十五仙但シ試掘ハ何レモ五仙又釐產稅ハ金屬石炭類ハ出產地ノ時価ノ千分ノ十五石類ハ千分ノ十又石灰及建築用石材ハ一切無稅トス本条例ハ公布ノ日ヨリ施行シ其ノ以前ニ外国資本ヲ募集シ採掘ニ従事スルタメニ締結シタル契約ハ其ノ効力ヲ存スト云フニ在リ委細郵便

奉天電濟

二二三 三月二十九日 在中国山座公使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

中国新鉱業条例ニ對スル抗議並條例遵守ニ關スル領事館証明書ノ留保附發給ニ付請訓ノ件

第二四五号

往電第二〇六号鉱業條例ニ對スル各國公使ノ意向ヲ探リタルニ左ノ通り

英國公使 第四条ノ証明書ハ治外法權ニ牴觸スルニ付發給

側ハ外交団ノ抗議ニ應ジテ直ニ條例ヲ改正スルカ如キコトナカルヘキニ付結局問題解決ニハ尙余程ノ時日ヲ要スルモノト思ハサルヘカラサル処利權競爭烈シキ此際ニ於テ帝國臣民ヲシテ漫然右條例ノ改正ヲ待タシムル如キハ素ヨリ不得策ニ付本使ノ抗議ニ拘ハラス各地領事官ハ「但シ條約ノ規定ニ違フヲ得スト」ト云フカ如キ意味ヲ加ヘテ第四条ノ証明書ヲ發給スルコト、致度若シ右記入ノ結果支那側ニ於テ許可セサルナラハ何等文句ヲ加ヘサルコト、ナストモ(鉱業條例ニ依ル外国人權利ニ關スル問題ヲ實際ニ解決スル必要ヲ生スルハ急ノ事ニハ有之間敷夫レ迄ニハ外交団抗議ニ對スル解決モ附クヘキニ付)別段差支ナカラント思料ス至急御詮議ノ上何分ノ電訓ヲ請フ

二二三 四月一日 在中国山座公使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

新鉱業條例ノ施行細則中外國人合辦ニ關スル規定報告ノ件

第二五二号

三月三十日公布施行ノ鉱業條例施行細則中外國人合辦ニ關スル第七條ノ規定左ノ如シ

七 中国鉱業条例ニ関スル件 二二四

外人合辦ニハ先ツ其契約草案ヲ鉱務監督署ヲ經由シテ農商
総長ニ提出シ許可ヲ得タル後調印スヘク契約具備条件ハ

一、条例第五条ノ合辦代表人ハ支那人タルコト

二、会社ノ各種重要職員ハ外人支那人各一人ヲ之ニ充ツル
コト

三、総テノ事務ハ双方支配人商議ノ上処理スヘキコト

四、各種ノ工事及金銭ノ支出モ双方支配人協商「サイン」
ノ上実行ノコト

五、鉱業管理上ノ一切ノ進行及其他ノ行為ハ鉱業条例及本
細則並ニ關係諸法律ヲ遵奉スルコト

六、坑夫ハ支那人ヲ使用スルコト

七、会社ハ鉱業外ノ事業ヲ兼營セサルコト

八、合辦ノ期滿チ契約ヲ繼續セサルトキハ総テノ会社ノ財
産ヲ公売シ之ヲ双方株券ニ応シ分配シ会社ヲ解散シ會
社取得ノ鉱業及其他ノ權利ハ同時ニ消滅スルコト

九、契約ハ双方ノ文字ニテ各四通ヲ作り二通ハ農商総長及
鉱務監督署長ニ提出シ他ノ二通ハ双方株主之ヲ保存ス
ヘシ誤記アルトキハ支那文ヲ以テ標準トスルコト

落合電済ミ委細郵報

細則ノ和訳文ヲ附記ス

(附記一)

鉱業条例和訳文

(中華民國三年三月十一日附教
令第三十四号同月十二日公布)

第一章 總則

第一条 鉱物ノ試掘、採掘及之ニ附属スル事業ヲ鉱業トス

第二条 試掘権及採掘権ヲ鉱業権トス

第三条 中華民國人民又ハ中華民國ノ法律ニ從ヒ成立シタ
ル法人ハ本条例ニ依リ鉱業権ヲ取得スルコトヲ得

第四条 中華民國トノ間ニ条約ヲ有スル外国ノ人民ハ中華
民國人民ト合資ノ上鉱業権ヲ取得スルコトヲ得但シ本条
例及其ノ他ノ關係諸法律ヲ遵守スヘシ

外国人民ノ出資分担額ハ資本全額ノ十分ノ五ヲ逾ユルコ
トヲ得ス

第一項ノ外国人民ハ自国外外交官又ハ領事官ノ証明書ヲ農
商総長又ハ鉱務監督署長ニ差出シ本条例及其ノ他ノ關係
諸法律ヲ遵守スヘキコトヲ証明スヘシ

第五条 二人以上共同シテ鉱業ヲ經營シ又ハ經營センコト
ヲ出願スル場合ニハ内一人ヲ選定シテ代表者ト為シ所轄

七 中国鉱業条例ニ関スル件 二二四

三五四

二二四 四月一日 在中国山座公使ヨリ
牧野外務大臣宛

中国新鉱業条例及同施行細則全文送付ノ件

附記一 鉱業条例ノ和訳文

二 鉱業条例施行細則ノ和訳文

公第八九号 (四月九日接受)

大正三年四月一日

在支那

特命全權公使 山座円次郎(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

三月十一日附ヲ以テ公布セラレタル鉱業条例中重要ノ点ハ
不取敢第二〇六号ヲ以テ電報シ又タ三月三十一日附ヲ以テ
公布セラレタル鉱業条例施行細則中外國人合辦ニ關スル条
項要旨ハ是亦不取敢第二五二号ヲ以テ電報致置候処茲ニ右
条例及施行細則全文別紙ノ通り進達候条御査閱相成度也
尚当地「ペキン、ガゼット」社出版ニ係ル同条例英訳文一
部相添申候

註 添附ノ鉱業条例、施行細則及「ペキン、ガゼット」社出版
ノ鉱業条例英訳文ヲ省略シ外務本省作成ノ鉱業条例及施行

鉱務監督署長ニ届出ツヘシ其ノ届出ナキトキハ鉱務監督
署長ヨリ一人ヲ指定シテ之ニ充当ス

前項ノ鉱業共同經營者又ハ鉱業共同經營出願者ハ組合契
約ヲ訂結シタルモノト看做ス

第六条 鉱物ノ種類左ノ如シ

(第一類)

金、銀、銅、鉄、錫、鉛、銻、鎳、鈷、錳、鋅、鋁、
砒、汞、鉍、鉬、鉍、鉬、鉍、鉬、鉍、鉬、鉍、鉬、
寶石類

(第二類)

水晶、石綿、雲母、鋼玉、石膏、磷酸石灰、重晶石、
硝酸塩、硫黄、硫化鉄、硼砂、弗石、大理石、長石、
滑石、筆鉛、泥炭、琥珀、土瀝青、柏油、浮石、海泡
石、磁土、硅藻土、硅藻板、苦土鉍、漂白土、顔料石
類(赭石紅土等ノ類)

(第三類)

青石、石灰石、砂石、花崗石、斑石、白雲石、土灰、
灰泥石、粘土、火粘土
其ノ他採掘シ得ル建築石材及一切ノ有用石類

三五五

食塩及石油ハ政府ノ専売ニ属スルヲ以テ右三類ノ鉱物
中ニ含まレサルモノトス

第七条 前条ニ列記セサル鉱物ハ農商総長ヨリ隨時種類ヲ
審定シ部令ヲ以テ之ヲ公布ス

第八条 第六条ニ列記シタル各種ノ鉱物並ニ其ノ廢鉱及鉱
滓ハ農商総長又ハ鉱務監督署長ノ許可ヲ受クルニ非レハ
試掘、採掘スルコトヲ得ス但シ地方団体公有ノ各種鉱泉
ハ此ノ限ニアラス

第九条 第六条第一類ノ鉱物ニ付テハ土地所有者タル土
地所有者タラサルトヲ問ハス先ツ鉱業権ノ出願ヲナシタ
ル者ニ於テ鉱業権取得上優先権ヲ有ス

第十条 第六条第二類ノ鉱物ニ付テハ土地所有者ニ於テ鉱
業権取得上優先権ヲ有ス但シ土地所有者ニシテ鉱業権取
得ヲ望マサルコトヲ明示シ又ハ登記後一箇年ヲ經過スル
モ尚事業ニ着手セサルトキハ農商総長又ハ鉱務監督署長
ハ他人ニ對シ其ノ鉱業権ノ取得ヲ許可スルコトヲ得

第十一条 第六条第三類ノ鉱物ハ土地所有者自ラ試掘、採
掘ヲ行ヒ若クハ他人ヲシテ試掘、採掘セシムルコトヲ得
但シ地方行政長官ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

ヲ一畝トナシ五百四十畝ヲ一方里トナス

第十六条 炭鉱ハ二百七十畝以上十万里以下其ノ他ノ各鉱
ハ五十畝以上五万里以下ヲ以テ限トス

前項ノ規定ハ特別ノ事情ニ因リ農商総長ニ於テ必要ト認
メタル場合ニハ之ヲ増減スルコトヲ得

第十七条 一鉱区内ニ於テハ二以上ノ鉱業権ヲ設定スルコ
トヲ得ス但シ種類ヲ異ニスル鉱物ヲ目的トシ又ハ第三十
五条ノ場合ハ此ノ限ニアラス

第十八条 鉱区外ニ隧道ヲ開掘シ専ラ疏水、通風、運搬ノ
用ニ供スルモノハ鉱区ト認メス但シ鉱務監督署長ノ許可
ヲ受クルコトヲ要ス

前項ノ隧道内ニ於テ鉱物ヲ発見シタルトキハ鉱務監督署
長ニ届出ツヘシ

鉱務監督署長ハ前項ノ届出ニ接シ採掘ノ価値アリト認メ
タルトキハ一定ノ期間内ニ鉱区ノ許可ヲ受ケシムルコト
ヲ得

第三章 鉱業権

第十九条 鉱業権ハ物權ト看做シ不動産ニ関スル諸法律ノ
規定ヲ準用ス但シ同一鉱区内ノ鉱業権及其ノ他ノ物權同

地方行政長官カ前項ノ許可ヲ為シタル場合ハ鉱務監督署
長ニ轉達スヘシ

第二章 鉱区

第十二条 鉱業権者カ政府ヨリ試掘又ハ採掘ノ許可ヲ得タ
ル地域ヲ鉱区ト称ス

第十三条 左記ノ各地ハ鉱区ト為スコトヲ得ズ

一 古聖ノ廬墓及歴代帝王ノ陵寢境界ヲ距ル一里以内ノ
地域

二 砲台、要塞、軍港及一切ノ軍用局廠ニ關係アル地点
ニ於テ所轄官署ノ許可ヲ經サル地域

三 商埠及市場ノ境界ヲ距ルコト一里以内ニシテ所轄官
署ノ許可ヲ經サル地域

四 官有、公有ノ建築物、公園、著名ナル古蹟、公用道
路、鐵道及緊要ナル用水等ノ境界ヲ距ル四十丈以内ニ
シテ所轄官署ノ許可又ハ所有者及關係人ノ承諾ヲ經サ
ル地域

第十四条 鉱区ノ境界ハ直線ヲ以テ之ヲ定メ地下開掘ノ境
界ハ地上ニ劃定セル境界線ノ直下ヲ以テ限トス

第十五条 鉱区ノ面積ハ方里及畝數ヲ以テ計算シ六十方丈

一人ニ属スルトキハ其ノ他ノ物權ハ依然トシテ存在ス

第二十條 鉱業権ハ不可分トス

第二十一条 鉱業権ハ繼承、讓与、滞納処分及強制執行ノ
目的タルノ外權利ノ目的タルコトヲ得ス但シ採掘権ハ抵
当権ノ目的ト為スコトヲ得

第二十二条 左記事項ハ所轄鉱務監督署ニ登録スヘシ但シ
鉱業権ノ行使ヲ制限セラレタルトキハ廢業ノ登録ヲ為ス
コトヲ得ス

一 鉱業権ノ設定、変更、移転、消滅及制限

二 鉱業権ヲ抵当ト為シタルトキハ其ノ抵当権ノ設定、
変更、移転、消滅及制限

三 鉱業共同經營者ノ脱退

第二十三条 前条ノ登録ニ関スル規則ハ別ニ法令ヲ以テ之
ヲ定ム

第二十四条 第二十二條ニ規定シタル登録ヲ要スル事項ハ
登録ヲナスニ非レハ其ノ効力ヲ生セス但シ鉱業権ノ繼
承、鉱業権ノ満期ニ因ル消滅及本條例ニ依ル競売ハ此ノ
限ニアラス

第二十五条 試掘ヲ為サントスルモノハ願書ニ図面ヲ添ヘ

所轄鉱務監督署長ニ差出シ許可ヲ受クヘシ但シ鉱務監督署長ニ於テ必要ト認メタルトキハ地方官ヲシテ調査セシメ又ハ吏員ヲ派シテ臨検セシムルコトヲ得

第二十六条 試掘権ハ二箇年ヲ以テ期限トス

第二十七条 試掘ノ際得タル鉱物ハ鉱務監督署長ノ許可ヲ受ケタル場合ニハ之ヲ売却又ハ消費スルコトヲ得但シ本条例ニ依リ納税スルモノトス

第二十八条 採掘ヲ為サントスルモノハ願書ニ図面ヲ添ヘ所轄鉱務監督署長ヲ經由シテ之ヲ農商総長ニ差出シ許可ヲ受ケ其ノ許可書ノ同署ニ到達スルヲ俟テ登録ヲ行フヘシ但シ農商総長ニ於テ必要ト認メタル場合ニハ所轄鉱務監督署長ヲシテ調査セシメ又ハ吏員ヲ派シテ臨検セシムルコトヲ得

第二十九条 鉱業出願人ハ其ノ名義ヲ變更スルコトヲ得但シ試掘期間ニ於テハ鉱務監督署長ニ届出テ採掘期間ニ於テハ鉱務監督署長ヲ經由シテ農商総長ニ届出テ其ノ許可ヲ得ルニ非サレハ効力ヲ生セサルモノトス

第三十条 採掘出願人ハ其ノ地ニ其ノ採掘セントスル鉱物ノ確ニ存在スルコトヲ証明スヘシ

要アルトキハ隣接鉱業権者ト協議ノ上其ノ承諾書ヲ具シ鉱務監督署長ヲ經由シテ農商総長ニ出願シ鉱区ヲ増改スヘシ

若シ前項ノ事情ニ依ラスシテ隣接鉱区ニ掘進セントスルトキハ隣接鉱業権者ノ承諾書ノ外若シ抵当権者アルトキハ其ノ承諾書ヲモ具シ一併之ヲ提出スヘシ

第三十六条 試掘出願地カ他人ノ已ニ許可ヲ得タル鉱区ト重複シ其ノ鉱物同種ナルトキハ其ノ重複セル部分ハ許可スルコトヲ得ス

第三十七条 採掘出願地カ他人ノ已ニ許可ヲ得タル鉱区ト重複シ其ノ鉱物同種ナルトキハ其ノ重複セル部分ハ許可スルコトヲ得ス但シ第三十五条ノ場合ニハ此ノ限ニアラス

第三十八条 採掘出願地カ他人ノ試掘出願地ト重複シ其ノ鉱物同種ナルトキハ其ノ重複セル部分ニハ第三十二条第一項ノ規定ヲ準用ス

第三十九条 鉱業出願地カ他人ノ鉱区ト重複シ其ノ鉱物異種ナルトキハ鉱務監督署長ハ直ニ鉱業権者ニ通知スヘシ但シ他人ノ鉱業ニ妨害アリト認メタルトキハ此ノ限ニア

第三十一条 鉱業出願人ノ差出シタル図面不完全ナルトキハ鉱務監督署長又ハ農商総長ハ一定ノ期間内ニ訂正又ハ追願ヲナサシムルコトヲ得若シ期限ヲ過クルモ尚訂正又ハ追願ヲナサ、ルトキハ原願書ヲ取消スヘシ

第三十二条 農商総長又ハ鉱務監督署長ニ於テ試掘出願地採掘ニ適スルモノト確認シタルトキハ一定ノ期間内ニ採掘ヲ出願セシムルコトヲ得若シ期限ヲ過クルモ尚出願セサルトキハ他人ノ出願ヲ許可スルコトヲ得

第三十三条 採掘出願地ノ位置形状、鉱床ノ位置形状ト相違シ鉱利ヲ損スルトキハ農商総長又ハ鉱務監督署長ハ一定ノ期間内ニ之ヲ訂正セシムルコトヲ得若シ期限ヲ過クルモ尚訂正ヲ出願セサルトキハ原願書ヲ取消スヘシ

第三十四条 農商総長又ハ鉱務監督署長ニ於テ鉱業出願地カ公益ヲ害シ又ハ經營ノ価値ナキモノト認メタルトキハ之ヲ許可スルコトヲ得サルモノトス

第三十五条 鉱床ノ位置形状ニ依リ隣接鉱区ニ掘進スル必

ラス

右通知後六十日以内ハ鉱業権者ニ於テ其ノ鉱業権取得上優先権ヲ有ス

前二項ノ規定ハ第三十五条ノ場合ニハ之ヲ適用セス

第四十条 試掘出願地カ他人ノ試掘出願地ト又ハ採掘出願地カ他人ノ採掘出願地ト重複シタルトキハ其ノ重複セル部分ニ付テハ先ニ出願シタル者ニ於テ優先権ヲ有ス若シ同時ニ出願シタルトキハ鉱務監督署長ハ期限ヲ指定シ各出願人ヲシテ協議ノ上再ヒ出願セシムヘシ

右指定ノ期限ヲ經過スルモ各出願人ニ於テ尚前項ノ出願ヲナサ、ルトキハ抽籤ニ依リ優先権者ヲ決定スヘシ

第一項ノ規定ハ第三十三条、第三十五条及第三十九条ノ但書ノ場合ニハ之ヲ適用セス

試掘出願地ト採掘出願地ト重複シタル場合ニ若シ同時ニ出願シ且鉱物同種ナルトキハ其ノ重複セル部分ニ付テハ採掘出願者ニ於テ優先権ヲ有ス

第四十一条 試掘権ノ期限満了後三十日以内ハ試掘権者ニ於テ該区域内ニ於ケル同種ノ鉱物ニ付採掘出願上優先権ヲ有ス

他人カ前項ノ区域ヲ以テ鉱業出願地トナス場合ニ其ノ鉱物異種ナルトキハ第三十九条ノ規定ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ前項ノ規定ニ依リ優先出願者ヲ以テ鉱業権者ト看做ス

第四十二条 試掘出願人同種ノ鉱物ニ付更ニ採掘ヲ出願シ其ノ出願地重複シタルトキハ其ノ試掘願書發送ノ日ヲ採掘願書發送ノ日ト看做ス但シ第四十条第四項ノ場合ハ此ノ限ニアラス

前項ノ規定ハ採掘出願人同種ノ鉱物ニ付更ニ試掘ノ出願ヲナシタル場合ニ之ヲ準用ス

前二項ノ規定ハ第三十二条及第三十三条第一項ノ期限ヲ經過シタル出願ニ付テハ之ヲ適用セス

第四十三条 試掘鉱区ノ増減、合併、分割及其ノ他ノ変更事項ハ鉱務監督署長ノ許可ヲ得之ヲ登録スヘシ採掘鉱区ノ場合ニハ鉱務監督署長ヲ經由シテ農商総長ノ許可ヲ受ケ其ノ許可書ノ同署ニ到達スルヲ俟チ之ヲ登録シタル後効力ヲ生ス

第四十四条 採掘権者ハ隨時事業計畫書ニ図面ヲ添ヘ之ヲ鉱務監督署長ニ差出シ其ノ審定ヲ請フヘシ

六 錯誤ニ因リ許可セシトキ

第四十七条 鉱業権者カ鉱業権ヲ債務ノ抵当トナストキハ左記各項ノ規定ニ依ルヘシ

一 鉱業権ヲ債務ノ抵当トナス場合ニハ農商総長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ効力ヲ生セス

二 鉱業権ヲ抵当トシタル後鉱業権者ニ於テ鉱区ヲ分割、合併、減少又ハ増減セントスルトキハ債権者ノ承諾又ハ各債権者ノ協定ヲ經ヘシ

三 鉱業権取消サレ又ハ自ラ廃業ヲナシタル場合其ノ登録ヲ経タルトキハ所轄鉱務監督署長ハ直ニ抵当権者ニ之ヲ通知スヘク該抵当権者ハ其ノ通知ヲ受ケタル後三十日以内ニ鉱務監督署長ニ其ノ鉱業権ノ競売ヲ申請スルコトヲ得但シ第四十六条第二項及第六項ノ場合ニ於ケル取消ハ此ノ限ニアラス

四 売却又ハ競売ノ手續未タ完了セサル期間内ニ於テハ其ノ鉱業権ハ売却或ハ競売ノ目的ノ範圍内ニ於テ仍ホ存続セルモノト看做ス

五 鉱業売得金ハ売却ノ費用及債務ノ利息支払ニ充テ其ノ残金ハ原鉱業権者ニ返還ス

採掘権者ハ鉱務監督署長ノ審定セル事業計畫書ニ依リ採掘スヘシ

前項ノ事業計畫書ニ変更ヲ加ヘントスルトキハ鉱務監督署長ノ審定ヲ經タル後之ヲ実行スルコトヲ得

第四十五条 鉱業権者ハ坑内実測図及鉱業簿ヲ鉱業事務所ニ備置キ且其ノ副本ヲ作成シ之ヲ鉱務監督署ニ差出スヘシ

前項ノ実測図及鉱業簿ノ様式ハ農商部令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十六条 鉱業権者左記各項ノ一ニ該当スル場合ニハ直ニ其ノ鉱業権ヲ取消スモノトス

一 登録後一箇年ヲ經過スルモ正当ノ理由ナクシテ事業ニ着手セス又半途ニシテ休業シ其ノ一箇年以上ニ及フトキ

二 鉱業カ公益ニ害アルトキ

三 鉱業警察規則ニ依ル危険予防又ハ事業停止ノ命ニ従ハサルトキ

四 事業計畫ニ拠ラスシテ事業ヲ行ヒタルトキ

五 期限ヲ過クルモ鉱業税ヲ納付セサルトキ

六 買受人カ本法第三条又ハ第四条ノ規定ニ從ヒ取得セル鉱業権ハ原鉱業権登録取消ノ日ニ於テ之ヲ取消シタルモノト看做ス

第四十八条 鉱業権取消サレ又ハ自ラ廃業ヲナシタル後鉱業権者自ラ其ノ鉱業ヲ処分スルトキハ前条第四項、第五項及第六項ノ規定ヲ準用ス

第四十九条 試掘又ハ採掘ヲ出願シタル場合ニ於テ吏員ヲ派遣シテ実地調査セシムル必要アルトキハ之ニ要スル費用ハ出願人ニ於テ負担スヘシ

第五十条 隣接鉱業権者及其ノ他ノ利害關係人事故ニ遭遇セル場合ニハ調査ノ為吏員ヲ派遣ヲ鉱務監督署長ニ出願スルコトヲ得但シ其ノ費用ヲ負担スヘキモノトス

第四章 土地使用

第五十一条 本法ニ於テ關係人ト称スルハ使用スル土地ニ付權利ヲ有スル者ヲ謂フ

第五十二条 本法ニ於テ補償金ト称スルハ地価使用料及土地所有者竝ニ關係人ノ通常受クヘキ實際ノ損失ニ対スル賠償金ヲ謂フ

第五十三条 鉱業出願人及鉱業権者ハ必要ノ場合ニ他人ノ

土地ニ於テ測量又ハ検査等ヲナスコトヲ得但シ鉱務監督署長ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ニ於テ之ヲ実行スルトキハ先ツ土地所有者又ハ土地占有者ニ通知スヘシ

第五十四条 測量検査等ノ為障礙物除去ノ必要アルトキハ鉱務監督署長ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ許可ヲ得タル後障礙物ヲ除去セントスルトキハ先ツ土地所有者又ハ土地占有者ニ通知スヘシ

第五十五条 鉱業権者ハ鉱業上急迫ノ危険ヲ防ク為他人ノ土地ニ立入り又ハ之ヲ使用スルコトヲ得但シ直ニ鉱務監督署長ニ届出テ且同時ニ土地所有者又ハ土地占有者ニ通知スヘシ

第五十六条 前三条ノ場合ニ土地所有者及関係人ニ於テ損失ヲ受ケタルトキハ鉱業権者ハ之ニ対シ相当ノ補償金ヲ支払フモノトス

第五十七条 鉱業権者ハ左ノ目的ノ為他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ得

一 鑿孔及開坑

二 鉱物、土石、爆裂物、木材、薪炭、鉱滓又ハ灰燼等

性質ヲ変シタルトキハ鉱業権者ハ土地所有者ト協議ノ上

土地所有者ヨリ土地ノ市価ニ照シ一回ニ補償金ノ支払ヲ請求スルコトヲ得但シ鉱物ヲ廃止シ又ハ使用ヲ終リタルトキハ土地ヲ原所有者ニ返還スヘシ

第六十一条 土地ノ一部ヲ使用スルニ因リ残地ノ価格ヲ減シ又ハ其ノ他ノ損失ヲ及ホシタルトキハ鉱業権者ハ土地所有者及関係人ニ相当ノ補償金ヲ支払フヘシ但シ其ノ残地ニシテ従来ノ効用ヲ失フトキハ前条ノ規定ヲ準用ス

第六十二条 使用スル土地ニ於テ道路、溝渠、牆棚及其ノ他ノ工作物等ノ増築又ハ改築ヲ要スルトキハ鉱業権者ハ土地所有者ニ相当ノ補償金ヲ支払フヘシ但シ已ニ第六十条ノ規定ニ依テ処分セシ場合ハ此ノ限ニアラス

第六十三条 第五十八条ノ公告又ハ通知ノ後土地所有者及

関係人ニ於テ其ノ土地ノ形質ヲ變更シ工作物ノ新築、改築若クハ大修繕ヲナシ又ハ物件ヲ増置セントスルトキハ

鉱務監督署長ノ許可ヲ受クヘシ若シ其ノ許可ヲ受ケサル

トキハ其ノ出費ニ対シ補償金ヲ請求スルコトヲ得ス

第六十四条 第五十八条ノ公告若クハ通知ノ後鉱業ヲ廃止又ハ變更シタルトキハ鉱業権者ハ土地所有者又ハ関係人

ノ堆積

三 選鉱場及製鍊場ノ建設

四 各種ノ鉄道、道路、運河、水管、汽管、溝渠、池井、索道及電線等ノ設置

五 其ノ他鉱業上必要ナル各種ノ工事及工作物ノ施設

第五十八条 前条ノ規定ニ依リ他人ノ土地ヲ使用スル場合ニハ鉱務監督署長ノ許可ヲ受ケ且該地ニ於ケル事業計画書ニ図面ヲ添ヘ鉱務監督署長ニ差出シ其ノ審定ヲ請フヘシ

鉱務監督署長前項ノ許可ヲナシタルトキハ直ニ公告ヲナシ若クハ土地所有者又ハ関係人ニ通知スヘシ

前項ノ公告又ハ通知ヲナシタル後鉱業権者ニ於テ土地ニ関スル権利ヲ取得セントスルトキハ土地所有者又ハ関係人ト協議ノ上之ヲ決定スヘシ

前二項ノ規定ハ官有地ノ場合ニハ所轄官署ノ許可ヲ請求スヘシ

第五十九条 他人ノ土地ヲ使用スルトキハ鉱業権者ハ土地所有者及関係人ニ相当ノ補償金ヲ支払フモノトス

第六十条 土地ノ使用三箇年以上ヲ要シ又ハ使用ノ為其ノノ損失ニ対シ相当ノ補償金ヲ支払フヘシ

第六十五条 土地所有者及関係人ハ補償金ニ付相当ノ担保提供方ヲ鉱業権者ニ請求スルコトヲ得

第六十六条 使用スル土地ニ付已ニ協定、裁決、決定又ハ評決ノ確定シタル後補償金又ハ担保確定セサルトキハ鉱業権者ハ補償金ヲ供託シ又ハ担保ヲ提供シテ其ノ土地ヲ使用スルコトヲ得

第六十七条 鉱業権者補償金ヲ支払ハス又ハ担保ヲ提供セサルトキハ土地所有者及関係人ハ其ノ土地ノ使用ヲ拒絶スルコトヲ得

第六十八条 土地ノ所有権ハ使用期間内ニ在リテハ鉱業権者ニ歸ス其ノ他ノ權利モ亦暫時之ヲ停止ス但シ使用ヲ妨ケサルモノハ此ノ限ニアラス

第六十九条 土地ノ使用ヲ終リタルトキハ鉱業権者ハ土地ヲ原状ニ復シテ原所有者ニ返還スヘシ原状ニ復スルコト能ハサル為シタル損失ニ対シテハ補償金ヲ支払フヘシ但シ第六十条ノ規定ニ依リ処分シタルモノハ此ノ限ニアラス

第七十条 土地ノ使用ニ関スル規定ハ水ノ使用ニ関スル権

利ニ之ヲ準用ス

第五章 鉱夫

第七十一条 鉱業ノ労働ニ従事スルモノヲ鉱夫トス

第七十二条 鉱業権者ノ定メタル鉱夫服務規則ハ所轄鉱務監督署長ニ届出テ其ノ許可ヲ受ケタル後効力ヲ生ス

第七十三条 鉱業権者ハ鉱夫名簿ヲ鉱業事務所ニ備置クヘシ其ノ様式ハ農商部部令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十四条 鉱夫賃金ハ毎月予メ期日ヲ定メ通用貨幣ヲ以テ一回又ハ二回ニ支給スヘシ

第七十五条 鉱業権者ハ解雇シタル鉱夫ニ対シ其ノ請求ニ因リ雇傭ノ期間、業務ノ種類、技能、賃金及解雇ノ事由等ヲ記載シタル証明書ヲ給与スヘシ

第七十六条 鉱夫カ業務上負傷シ疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキハ鉱業権者ハ医薬撫恤費等ヲ給与スヘシ

第七十七条 鉱夫ノ年齢及就業時間並ニ婦女幼者ノ労役ノ種類等ハ農商総長之ヲ制限スルコトヲ得

第六章 鉱業税

第七十八条 鉱業税ノ種類ハ左ノ如シ

一 鉱区税

第八十四条 鉱業ニ関スル警察事務ハ農商総長及所轄鉱務監督署長之ヲ行フ其ノ規則ハ農商部部令ヲ以テ之ヲ定ム

第八十五条 農商総長又ハ鉱務監督署長ハ鉱業ノ施設カ危険アリ又ハ公益ヲ害スルモノト認メタルトキハ鉱業権者ヲシテ予防方法ヲ講セシメ又ハ一時其ノ事業ノ停止ヲ命スヘシ

第八十六条 採掘権者ノ使用スル技術員ハ農商総長又ハ鉱務監督署長ニ於テ選任又ハ改任セシムルコトヲ得

前項ノ技術員ノ資格及職務ハ農商部部令ヲ以テ之ヲ定ム

第八十七条 鉱業権ハ其ノ消滅後一箇年以内ニ於テハ危険予防ニ関シ仍ホ存続スルモノト看做ス

農商総長及鉱務監督署長ハ鉱業権者ヲシテ危険予防ノ設備ヲ為サシムルコトヲ得

第八章 裁決、訴願及訴訟

第八十八条 鉱業ニ関スル許可又ハ不許可ニ付不服アル者ハ三箇月内ニ農商総長ニ訴願ヲ提起スルコトヲ得若シ違法ニ因リ權利ヲ侵害セラレタルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第八十九条 第三十五条第一項ニ関スル協議不成立ニ終リ

二 鉱産税

第七十九条 鉱区税ノ税額ハ左ノ如シ

- 一 採掘鉱区ニ付テハ第六条第一類ノ鉱物ハ毎年一畝ニ付銀三角（三十仙）ヲ納メ砂鉛、砂金、砂錫、砂鉄ノ河底ニ在ルモノハ毎年長十丈毎ニ銀三角ヲ納メ第六条第二類ノ鉱物ハ毎年一畝ニ付銀一角五分ヲ納ムヘシ
- 二 試掘鉱区ニ付テハ前項ノ税額ハ何レモ其ノ五分ノ一トス

第八十条 前条ノ鉱区税ハ地面ニ対スル租税以外ノ税トス

第八十一条 鉱産税ノ税額ハ左ノ如シ

- 一 第六条第一類ノ鉱物ハ産出地ノ平均市価ヲ按シ千分ノ十五ヲ納ムヘシ
 - 二 第六条第二類ノ鉱物ハ産出地ノ平均市価ヲ按シ千分ノ十ヲ納ムヘシ
- 第八十二条 第七十九条及第八十一条ノ鉱区税及鉱産税ハ何レモ二期ニ均分シテ納付スヘシ

第八十三条 第六条第三類ノ鉱物ハ鉱区税及鉱産税ヲ免除ス

第七章 鉱業警察

タル場合ニハ鉱務監督署長ノ裁決ヲ申請スルコトヲ得

若シ前項ノ裁決ニ服セサルトキハ農商総長ニ訴願ヲ提起スルコトヲ得違法ニ因リ權利ヲ侵害セラレタルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九十条 鉱業権ノ取消ニ付鉱業権者ニ於テ不服アルトキハ農商総長ニ訴願ヲ提起スルコトヲ得若シ違法ニ因リ權利ヲ侵害セラレタルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九十一条 鉱業権者ハ土地ノ使用又ハ補償金及担保ニ付協議不成立ニ終リタルトキハ鉱務監督署長ノ裁決ヲ申請スルコトヲ得

土地ノ使用ニ付前項ノ裁決ニ服セサル者ハ農商総長ニ訴願ヲ提起スルコトヲ得若シ違法ニ因リ權利ヲ侵害セラレタルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

補償金及担保ニ付第一項ノ裁決ニ服セサル者ハ民事訴訟法ニ依リ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九十二条 処分又ハ裁決ニ服セサル者ハ処分又ハ裁決ノ通告書ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得処分又ハ裁決ノ通告書ヲ受ケサルトキハ公示ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第九十三条 中華民國人民ト共同シテ鉱業經營ヲナシ又ハ雇傭セラレタル外国人ハ鉱務ニ関スル爭議ニ付鉱務監督署長ノ裁決ヲ請フモノトス

第九章 罰則

第九十四条 詐偽ニ依リ鉱業權ヲ取得シ又ハ鉱業權ヲ有セスシテ鉱物ヲ盜採シタル者ハ三年以下ノ有期徒刑又ハ三千元以下ノ罰金ニ処ス

第九十五条 私ニ鉱業權ヲ転売シ又ハ質入抵当トナシタル者ハ前条ノ処罰ヲ準用ス

第九十六条 登録シタル鉱区以外ニ於テ過失ニ基キ採掘シタル者ハ五百元以下ノ罰金ニ処ス

第九十七条 前三条ノ規定ニ因リ処罰スル場合ニハ其ノ採掘シタル鉱物ヲ没収ス已ニ売却シ又ハ消費シタルトキハ其ノ代金ヲ追徴ス

第九十八条 第十三条ノ規定ニ違背シ又ハ第八十五条及第八十七条第二項ノ命令ニ従ハサル者ハ五百元以下ノ罰金ニ処ス

第九十九条 第二十七条、第四十四条及第七十四条ノ規定ニ違背シタル者ハ二百元以下ノ罰金ニ処ス

第一百零七条 従来許可セラレタル鉱区ハ本條例公布ノ日ヨリ六箇月以内ニ本條例ニ依リ登録ヲ出願スヘシ

第一百零八条 従来ノ鉱界年租及出井税ハ本條例公布ノ日ヨリ六箇月以内ハ旧則ニ照シテ徴収シ半年ニ達セサルモノハ月割ヲ以テ計算ス

第一百九条 本條例施行前第六条第三項ノ鉱物ニ対シ鉱業稅ヲ徴収シテ地方稅ト為シタルモノハ暫ク旧ニ依ル但シ千分ノ五ヲ超ユルコトヲ得ス

第一百十条 官營ノ鉱業ニハ法令ニ別ニ規定セルモノヲ除キ本條例ノ規定ヲ準用ス

第一百十一条 本條例施行前外資ヲ募集シ鉱業ヲ經營スル為訂結シタル契約ハ何レモ其ノ旧ニ依ル

(附記二)

鉱業條例施行細則和訳文

(中華民國三年三月三十一日附教令第四十一号同年四月一日公布)

第一条 鉱業ニ関スル一切ノ願書図表ハ農商部ニ於テ定メタル様式アルモノハ之ニ從ヒ調製スヘシ

前項ノ願書図表ニ付農商總長又ハ鉱務監督署長ニ於テ不完全ト認メタルトキハ期限ヲ附シテ其ノ修正又ハ補充ヲ

第一百条 第五十四条、第七十二条及第七十三条ノ規定ニ違背シタル者ハ百元以下ノ罰金ニ処ス

第一百一条 所轄官吏カ鉱業ニ関スル帳簿又ハ物件ヲ検査セントスル際之ヲ拒絕シ又ハ妨止シタル者ハ五十元以下ノ罰金ニ処ス

第一百二条 脱稅ヲ企テ又ハ已ニ脱稅シタル者ハ納稅額ノ三倍ニ相当スル罰金ニ処ス

第一百三條 本條例又ハ本條例ニ基キ發布スル命令ノ規定ニ違背シタル者ニ対シテハ刑法ニ規定セル減輕、再犯加重及數罪俱發ノ例ヲ適用セス

第一百四條 鉱業權者若シ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本條例ニ定メタル罰則ハ其ノ法定代理人ニ対シテ之ヲ適用ス但シ該未成年者カ鉱業上ニ於テ成年者ト同一ノ能力ヲ有スルトキハ此ノ限ニアラス

第一百五條 鉱業權者ハ其ノ代理人、雇人及其ノ他ノ從業者カ其ノ業務ニ関シ本條例ヲ犯シタル場合ニハ其ノ自己ノ意ニ出テサルノ故ヲ以テ本法ノ処罰ヲ免ル、コトヲ得ス

附則

第一百六條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

命スルコトヲ得

第二條 農商總長又ハ鉱務監督署長ニ差出シタル図面表冊標本等ハ必要ト認メタルトキハ一切之ヲ返付セサルモノトス

第三條 本細則ノ規定ニ依ル一切ノ手續及其ノ他ノ行為ハ鉱業出願人、鉱業權者、土地所有者又ハ關係人ノ承継人ニ対シテモ總テ効力ヲ有ス

第四條 本細則中鉱業ノ出願ニ関スル規定ハ鉱業出願地又ハ鉱区ノ訂正、増減及改正ノ出願ニモ之ヲ準用ス

第五條 願書図面等ヲ郵便ニテ差出ストキハ書留トナスヘシ農商總長又ハ鉱務監督署長ハ發送地郵便局ノ書留ノ日時ヲ以テ差出ノ日時トナス

前項ノ書留ノ受取証ハ出願人之ヲ保存スヘシ

第六條 鉱務監督署長ヲ經由シテ農商總長ニ差出シタル願書図面等ハ鉱務監督署長ニ差出シタル日時ヲ以テ標準トナス

第七條 鉱業條例第四条ノ規定ニ依リ中華民國人民及外國人民合資ノ上鉱業ヲ經營セントスルトキハ契約草案ヲ鉱務監督署長ヲ經由シテ農商總長ニ差出シ許可ヲ得テ署名

訂結スヘシ契約ニ記載スヘキ条件左ノ如シ

一 鉱業条例第五条ノ規定ニ依ル代表者ハ中華民國人民ヲ以テ之ニ充ツヘシ

二 会社ノ重要ナル各職員ハ内外人各一人ヲ任命シテ之ニ充ツヘシ

三 凡テ事務ハ内外両經理人協議ノ上処理スルモノトス

四 凡テ各種ノ工事及金額ノ支払ハ内外両經理人ニ於テ協議ヲ遂ケ署名ノ後之ヲ行フヘシ

五 鉱業管理上ノ一切ノ手續及其ノ他ノ行為ハ鉱業条例及本細則並ニ關係諸法令ニ從ヒ之ヲ処理スヘシ

六 労働者ハ一切中華民國人民ヲ用ユヘキモノトス

七 会社ハ鉱業經營ノ外他ノ事業ヲ兼營スルコトヲ得ス

八 共同經營ノ期限ハ若干年トシ期限満了ニ際シ契約ヲ

繼續セサルトキハ總テノ財産ヲ公平ニ評價シテ之ヲ売却シ其ノ売却金額ハ内外人民ノ株数ニ依リテ之ヲ配分シ会社ハ直ニ解散ヲ行ヒ其ノ取得シタル鉱業權及其ノ他ノ權利ハ一切同時ニ消滅スルモノトス

九 契約ハ内外文ヲ以テ各四通ヲ作り二通ハ農商總長及鉱務監督署長ニ差出シ二通ハ内外株主ニ於テ各一通ヲ

十四条ノ規定ヲ適用ス

第十三条 鉱業出願地ノ產出物カ鉱業条例第六条第二類ノ鉱物ナルトキハ鉱業条例第十条ノ規定ニ依リ鉱務監督署長ニ於テ公告シ又ハ土地所有者ニ通知シ該地ノ鉱業權取得ヲ望ムヤ否ヤヲ一定期間内ニ申出ツヘキ旨ヲ命スヘシ

前項ノ公告又ハ通知ヲ受ケタルトキハ土地所有者ハ期限内ニ申出ツヘシ鉱業權ノ取得ヲ望マス又ハ期限經過スルモ申出サルトキハ前鉱業出願人ニ於テ鉱業權取得上ノ優先權ヲ有ス

第十四条 前条ノ規定ニ依リ鉱業出願人ニ於テ先ツ土地所有者自ラ經營スルヲ望マサルノ証書ヲ取得スルニ於テハ之ヲ願書ニ添附シテ差出スヘシ

第十五条 鉱業条例第十条ノ規定ニヨリ土地所有者鉱業出願人タルトキハ地券ヲ願書ニ添附シテ差出スヘシ

第十六条 鉱業ニ關スル出願ニシテ鉱利ヲ保護スルカ為又ハ鉱区分合上ノ便利ノ為鉱業条例第十六条第一項ノ制限ヲ超過スルノ必要アル場合ニハ理由書ヲ具シ願書ニ添附シテ差出スヘシ

所持ス誤解アルトキハ專ラ中国文ニ拠ル

第八条 鉱業ノ共同經營ヲ出願スルトキハ代表者一人ヲ定メ連署シテ出願スヘシ

出願人ヲ變更シ及鉱業權ヲ設定又ハ移轉スルニ當リ鉱業出願人又ハ鉱業權者二人以上アルトキハ前項ノ規定ヲ準用ス

第九条 共同鉱業出願人又ハ共同鉱業權者代表者ヲ改定シタルトキハ連署ヲ以テ届出ツヘシ

第十条 鉱業条例第五条第一項ノ規定ニ依リ鉱務監督署長代表者ヲ指定シタルトキハ各共同鉱業出願人又ハ共同鉱業權者ニ通知スヘシ

第十一条 鉱業出願人代表者ニ於テ出願ノ取消又ハ鉱区ノ増減ヲ出願シ若クハ出願人ノ變更ヲ届出ツルトキハ全体ノ決議書又ハ相當ノ証書ヲ願書ニ添附シテ差出スヘシ

前項ノ規定ハ共同鉱業經營ノ場合ニ於テ鉱区ノ増減、合併、分割ノ出願ニモ之ヲ準用ス

第十二条 地上ノ砂鉄ヲ採取スル為(砂金、砂錫、砂鉄等ノ如キ)他人ノ土地ヲ使用スルトキハ鉱業条例第五十八条乃至第六十一条及第六十三条乃至第六十九条並ニ本細則第六十三条、第六

第十七条 鉱業出願地カ鉱業条例第十三条第二項、第三項、第四項ニ記載シタル範圍内ニ在ルトキハ出願ノ日ヨリ三十日以内ニ所轄官庁又ハ所有者ノ許可書若クハ証明書ヲ得テ之ヲ差出スヘシ

第十八条 鉱業出願地ノ形狀鉱業ノ經營ニ不適當ト認メタルトキハ鉱務監督署長ハ農商總長ノ認可ヲ經テ期限ヲ附シテ出願人ニ出願地ノ改正ヲ命スルコトヲ得

第十九条 鉱業出願人他人ノ鉱区ト隣接セル地ニ於テ鉱区ヲ画定セントスルトキ他人ノ鉱区境界ヲ離ル、コト少クモ六十尺ナルコトヲ要ス但シ隣接鉱業權者ノ承諾ヲ得タルトキ又ハ他人ノ試掘鉱区範圍内ニ於テ採掘ヲ出願シタルトキハ此ノ限ニアラス

前項ノ規定ニ依リ隣接鉱業權者ノ承諾ヲ得タルトキハ承諾書ヲ徴シ之ヲ願書ニ添附シテ差出スヘシ

鉱務監督署長ハ鉱利ノ保護又ハ監督ノ為前項ノ距離ノ延長又ハ短縮ヲ必要ト認メタルトキハ農商總長ノ認可ヲ經テ期限ヲ附シテ出願人ニ出願地ノ増減ヲ命スルコトヲ得

第二十条 同一地域ニ二種以上ノ鉱物存在シ鉱業出願人ニ於テ總テ許可ヲ望ムトキハ各種ノ鉱物毎ニ願書ヲ差出ス

ヘシ但シ同一ノ鉱床中ニ存スルモノハ此ノ限ニアラス

第二十一条 鉱業権ヲ取得シタル後鉱物ノ名称ヲ変更セシトスルトキハ願書ニ理由書ヲ添附シテ差出スヘシ

第二十二條 願書ニ添附シテ差出スヘキ鉱区図面ハ農商部ニ於テ定メタル様式ニ依リテ調製シ且左記ノ事項ヲ詳記スヘシ

一 出願地ノ地名及種類

二 出願地ノ面積

三 南北線

四 縮尺

五 基点(出願地ノ兩端ニ於テ極テ顯著ナル不動物体ヲ選定シ以テ基点トナス)

六 測点及其ノ番号(出願地ノ各端ニ於テ測点ヲ定メ又ハ界石ヲ設ケ以テ測点トナス)

七 境界線並ニ基点、測点ト連結セル直線ノ方位及其ノ丈尺

八 出願地境界線ヲ距ル三百尺以内ニ於ケル隣接鉱区トノ關係

九 出願地並ニ其ノ附近一帯ニ於ケル鉱床ノ露頭及其ノ走向傾斜但シ砂鉱等ハ此ノ例ニ依ラス

十 出願地並ニ其ノ附近一帯ノ地形及鉱業条例第十三條

トヲ得若シ符合セサル点アルヲ発見シタルトキハ理由ヲ示シテ其ノ訂正ヲ命スヘシ

提出者自ラ更正ヲ行フトキモ亦鉱務監督署長ノ審定ヲ受クヘシ

第二十五條 鉱務監督署長出願地ノ再測ヲ必要ト認メタルトキハ期限ヲ附シテ出願人ニ原図測量簿及其ノ他ノ草稿ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第二十六條 鉱務監督署長ハ鉱業出願地又ハ鉱区ニ吏員ヲ派遣シテ实地調査ヲナスノ必要ヲ認メタルトキハ先ヅ期日及調査事項ヲ指定シ鉱業出願人又ハ鉱業権者ニ立会ヲ命スヘシ

第二十七條 鉱業出願人ヲ変更スルトキハ願書ニ新旧出願人連署スヘシ

但シ試掘地ニ於テ採掘ヲ出願シタル後其ノ出願人変更スルトキハ試掘権移転ノ証明書ヲ添附シテ差出スヘシ

前二項ノ規定ハ既ニ試掘権移転ノ届出ヲ為シタルモノニハ之ヲ適用セス

第二十八條 繼承ニ因リ鉱業出願人トナリタルモノ又ハ其ノ氏名、称号若クハ住所ヲ変更シタル鉱業出願人ハ之ヲ

ニ記載セル各項

河底ニ在ル砂鉱ノ採取ヲ出願スルトキハ左ノ事項ヲ鉱区図ニ記載スヘシ

一 河名及沿岸一帯ノ地名、種類

二 河道ノ総延長線及幹流、支流ノ各延長線

三 南北線

四 縮尺

五 出願シタル採掘鉱区ノ各端

六 各端ニ關スル不動基点並ニ其ノ標記名称

七 基点ト各端測点間トノ丈尺及其ノ方位

八 全河流ニ対シ許可ヲ出願スルニ非レハ明カニ境界線ヲ記載スヘシ

測量者カ此ノ種ノ鉱区図ヲ調製シタルトキハ署名捺印スルコトヲ要ス若シ錯誤アレハ其ノ責ニ任スルモノトス但シ鉱務監督署ノ実測図ト符合スルモノハ此ノ限ニアラス

第二十三條 採掘出願人ハ該鉱ノ鉱産説明書ヲ調製シ願書ニ添附シテ差出スヘシ

第二十四條 鉱務監督署長ハ期限ヲ附シテ鉱業出願人又ハ試掘権者ニ鉱業ノ設備ニ關スル計画書ノ提出ヲ命スルコ

トヲ得若シ符合セサル点アルヲ発見シタルトキハ理由ヲ示シテ其ノ訂正ヲ命スヘシ

第二十九條 共同鉱業出願人脱退シタルトキハ代表者ハ脱退ノ日ヨリ十日以内ニ之ヲ証明スヘキ書面ヲ添附シテ鉱務監督署長ニ届出ツヘシ

前項ノ規定ハ代表者ナキトキハ共同出願人ヨリ届出ツヘシ

第三十條 採掘出願地ノ訂正又ハ鉱業出願地ノ増減ヲ願出ツルトキハ願書ノ外ニ理由書並ニ鉱区図ヲ添附シテ新旧出願地ノ關係ヲ明示スヘシ

第三十一條 鉱業出願人既ニ第四十條ノ通知ヲ受ケタルトキハ再ヒ鉱区増減ノ出願ヲナスコトヲ得ス

第三十二條 鉱業条例第四十條第二項ノ規定ニ依リ鉱務監督署長抽籤ヲ行フトキハ關係鉱業出願人ヲシテ出頭參觀セシムヘシ

鉱務監督署長ハ抽籤ノ時日ヲ予定シ半箇月前ニ關係鉱業出願人ニ通知スヘシ

關係鉱業出願人其ノ時日ニ出頭セサルトキハ鉱務監督署長ハ二名以上ノ鉱務監督署職員立会ノ上之ヲ行フ

第三十三条 鉱区ノ合併又ハ分割ニ関シ出願スルトキハ其ノ理由書並ニ新旧鉱区ノ關係図面ヲ願書ニ添附シテ差出スヘシ
 鉱区分割ノ場合ハ各区毎ニ図面ヲ調製スヘシ
 前項ノ願書ハ其ノ鉱業権既ニ抵当トナリ居ルトキハ鉱業条例第四十七条第二項ノ規定ニ依リ債権者ノ承諾書又ハ各債権者ノ協定書ヲ得テ一併差出スヘシ
 第三十四条 鉱業条例第三十五条第一項ノ規定ニ依ル願書ニハ鉱区図ノ外鉱産図及其ノ説明書ヲ添附シ且隣接鉱業権者ノ承諾書又ハ之ニ相当スル証書ヲ得テ一併差出スヘシ
 鉱業条例第三十五条第二項ノ規定ニ依ル願書ニハ図面ノ外隣接鉱業権者及其ノ抵当権者ノ承諾書ヲ得テ一併差出スヘシ
 前二項ノ鉱床図ハ平面図及断面図ノ二種ヲ調製スヘシ
 第三十五条 鉱区ノ訂正、増減又ハ改正ノ出願ニ関シテハ第三十条ノ規定ヲ準用ス
 第三十六条 鉱業条例第四十七条第二項ノ規定ニ依ル減区又ハ増減区ニ関シ出願スルトキハ債権者ノ承諾書ヲ願書ニ添附シテ差出スヘシ

増区又ハ増減区ニ関スルトキ 每一件 銀二十元
 減区ニ関スルトキ 每一件 銀三元
 鉱区訂正ニ関スルトキ 每一件 銀十二元
 改正ニ関スルトキ 每一件 銀二元
 八 採掘鉱区ノ合併又ハ分割ニ関スル願書 每一件 銀十二元
 九 採掘鉱区分合ニ関スル願書 每一件 銀二十元
 十 採掘出願人ノ變更ニ関スル願書 每一件 銀二元
 繼承ニ因テ變更スルトキ 每一件 銀二元
 繼承以外ノ原因ニ因テ變更スルトキ 每一件 銀二十元
 十一 共同鉱業出願人ノ脱退ニ関スル願書 每一件 銀二元
 十二 鉱物名称變更ニ関スル願書 每一件 銀四元
 十三 鉱業条例第五十条ノ規定ニ依ル実測申請ノ願書 每一件 銀二十元
 十四 鉱業条例第五十三条ノ規定ニ依ル測量又ハ検査申請ノ願書 每一件 銀四元
 十五 鉱業条例第五十四条ノ規定ニ依ル障物除去申請

第三十七条 鉱業ニ関シ出願スルトキハ左記ノ各項ニ照シ願書ヲ差出スト共ニ手数料ヲ納付スヘシ
 一 試掘ニ関スル願書 每一件 銀二十元
 二 試掘出願地ノ變更ニ関スル願書 每一件 銀十二元
 増区又ハ増減区ニ関スルトキ 每一件 銀十二元
 減区ニ関スルトキ 每一件 銀二元
 三 試掘鉱区ノ變更ニ関スル願書 每一件 銀十二元
 増区又ハ増減区ニ関スルトキ 每一件 銀十二元
 減区ニ関スルトキ 每一件 銀二元
 改正ニ関スルトキ 每一件 銀二元
 四 試掘出願人ノ變更ニ関スル願書 每一件 銀二元
 繼承ニ因テ變更スルトキ 每一件 銀二元
 繼承以外ノ原因ニ因テ變更スルトキ 每一件 銀二元
 五 採掘ニ関スル願書 每一件 銀十元
 六 採掘出願地ノ變更ニ関スル願書 每一件 銀三十元
 増区又ハ増減区ニ関スルトキ 每一件 銀二十元
 減区ニ関スルトキ 每一件 銀二元
 七 採掘鉱区ノ變更ニ関スル願書 每一件 銀二元

ノ願書 每一件 銀六元
 十六 鉱業条例第五十七条ノ規定ニ依ル他人ノ土地使用申請ノ願書 每一件 銀十元
 十七 裁決申請ニ関スル願書 每一件 銀十元
 第三十八条 鉱務監督署長ハ左ノ場合ニハ提出セラレタル書面ヲ一切受理セサルモノトス
 一 鉱業出願地ノ全部又ハ大部分カ当該鉱務監督署ノ管轄区域内ニ在ラサルトキ
 二 出願ノ鉱物カ鉱業条例第六条第一類、第二類ニ該当セサルトキ
 三 願書アルモ鉱区図ナキトキ又ハ鉱区図アルモ区域分明ナラサルトキ
 四 前条ノ規定ニ依リ手数料ヲ納付セサルトキ
 五 第十一条ノ規定ニ違背シ全体ノ決議書又ハ之ニ相当スル書面ヲ添附セサルトキ
 六 第五条ノ規定ニ違背シ書留郵便ヲ以テ差出サハルトキ
 七 第二十七条第一項ノ規定ニ違背シ新旧出願人連署セサルトキ

- 八 第二十七条第二項ノ規定ニ違背シ試掘権移転ノ証明書ヲ添附セサルトキ
- 九 第三十三条第二項ノ規定ニ違背シ承諾書及協定書ヲ添附セサルトキ
- 十 第三十四条、第三十六条ノ規定ニ違背シ承諾書又ハ之ニ相当スル証書ヲ添附セサルトキ
- 十一 第四十一条ノ規定ニ違背シ鉱業許可証ヲ返納セサルトキ
- 第三十九条 鉱務監督署長ハ左ノ場合ニハ提出セラレタル書面ヲ却下スヘシ
 - 一 内外人民鉱業共同経営ノ為締結セル契約カ第七条ノ規定ニ依ラサルトキ
 - 二 実地調査ノ際ニ当リ出願人カ地点ヲ指示スルコト能ハサルカ又ハ第二十六条ノ規定ニ依ル調査事項ヲ説明スルコト能ハサルトキ
- 三 鉱区図面ニ記載セル区域ト實際ノ区域ト符合セサルトキ
- 四 第一条第二項ノ規定ニ違背シ期限内ニ願書図面ノ修正又ハ補充ヲ為サ、ルトキ

- 五 第十七条ニ規定セル期限内ニ許可書又ハ証明書ヲ差出スコト能ハサルトキ
- 六 第十八条及第十九条第三項ノ規定ニ依ル期限内ニ出願地ノ改正又ハ増減ヲ為サ、ルトキ
- 七 第二十四条ノ規定ニ依ル期限内ニ設計書ヲ提出セサルトキ
- 八 第二十六条ノ規定ニ依リ指定シタル期日ニ立会調査ヲ為サ、ルトキ
- 九 第四十条ノ規定ニ依ル期限内ニ登録手数料ヲ納付セサルトキ
- 第四十条 凡テ鉱業ニ関スル出願許可ヲ受ケタルトキハ鉱務監督署長ハ直ニ之ヲ出願人ニ通知スヘシ
出願人ハ前項ノ通知書ヲ受ケタル日ヨリ二箇月以内ニ鉱業登録条例ニ拠リ登録手数料ヲ納付シテ登録スヘシ
登録手数料ハ代理人ニ由リ又ハ書留郵便ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得書留郵便ヲ用ユルトキハ第五条ノ規定ヲ準用ス
登録手数料ヲ納付スルトキハ第一項ノ通知書ヲ添附シテ差出スヘシ

第四十一条 鉱業権ノ設定又ハ変更ノ為前条ノ規定ニ依リ手数料ヲ納付シテ登録スルトキハ鉱務監督署長ハ登録ノ

際鉱業許可証ヲ下附シ又ハ之ヲ換給ス
前項ノ鉱業許可証ハ採掘許可証、試掘許可証ノ二種ニ分

チ採掘許可証ハ農商総長出願ヲ許可スルトキニ指令書ニ添附シテ鉱務監督署長ヲ經由シテ下附シ試掘許可証ハ鉱務監督署長ヨリ下附ス

鉱区ノ合併又ハ分割ニ因リ鉱業権設定ノ出願ヲナストキ又ハ鉱区ノ変更ニ因リ鉱業権変更ノ出願ヲナストキ若クハ第二十一条ノ規定ニ依リ鉱種名称更正ノ出願ヲナストキハ鉱業許可証ヲ願書ニ添附シテ差出スヘシ其ノ出願ノ許可ヲ受ケタルトキハ前二項ノ規定ニ依リ鉱業許可証ヲ換給シ原許可証ハ夫々農商総長又ハ鉱務監督署長ニ返納セシメ登録ヲ取消スヘシ

鉱業権ノ譲与又ハ継承ニ因リ登録ヲ出願スルトキハ鉱業許可証ヲ鉱務監督署長ニ差出シ登録ヲ申請スヘシ

鉱業権消滅スルトキハ鉱業許可証ヲ鉱務監督署長ニ返納シテ消滅ノ登録ヲナシ又ハ鉱務監督署長ヲ經由シテ農商総長ニ差出シテ消滅ノ登録ヲナスヘシ

第四十二条 鉱区所在地ノ名称、種類、境界、基点及面積

カ差出シタル鉱区図ト符合セサルコトヲ発見シタルトキハ鉱務監督署長ハ期限ヲ附シテ鉱業権者ニ其ノ表示地位ノ変更ヲ命スルコトヲ得但シ調査図ノ写ヲ示スヘシ

第四十三条 鉱業権者鉱業代理人ヲ選定シテ鉱業ヲ管理セシムルトキハ鉱務監督署長ニ届出ツヘシ

前項ノ代理人ハ鉱業条例及本細則ノ規定ニ依ル鉱業管理ニ関スル一切ノ手續及其ノ他ノ行為ニ付完全ナル代理権ヲ有ス鉱業権者代理権ニ制限ヲ加ヘタルトキハ届出ノトキ之ヲ明示スヘシ

第四十四条 鉱業開始ノトキハ鉱業権者ハ鉱区所在地又ハ其ノ附近ニ鉱業事務所ヲ設置シ且事業着手ノ期日及重要事務員ニ付總テ鉱務監督署長ニ届出ツヘシ

第四十五条 鉱業権者鉱業権ノ設定若クハ移転ノ登録アリタル日ヨリ六箇月以内ニ事業ニ著手スルコト能ハサルトキ又ハ六箇月以上休業ヲ要スルトキハ何レモ其ノ理由ヲ明示シテ鉱務監督署長ニ届出ツヘシ届出ノ期限内ニ事業ニ着手シタルトキハ直ニ報告スヘシ

第四十六条 試掘権者ハ試掘鉱区図及試掘工程表ヲ鉱業事

務所ニ備置クヘシ採掘権者ハ坑内実測図、鉱業簿、採掘鉱区図、鉱業計画書、鉱夫名簿等ヲ鉱業事務所ニ備置クヘシ鉱務監督署長ニ於テ必要ト認メタルトキハ何時ニテモ吏員ヲ派遣シテ検査スルコトヲ得

第四十七条 試掘工程表ハ毎月一回之ヲ調製シ開鑿ノ状況、採取鉱物数量、試掘日数及鉱夫数ヲ詳細記載スヘシ第四十八条 試掘ニ依リテ得タル鉱物ヲ試掘権者ニ於テ処分セントスルトキハ其ノ処分方法及数量ヲ定メ鉱務監督署長ニ許可ヲ出願スヘシ

第四十九条 坑内実測図ハ平面図、断面図ノ二種ニ分チ毎月末日ニ於ケル掘進ノ状況ヲ詳細測定シ翌月ノ初メニ図面内ニ記入スヘシ

毎年一月及七月ニ前六箇月ノ坑内実測図ノ複本一通ヲ調製シ二箇月内ニ鉱務監督署長ニ提出シ其ノ査閲ニ備フヘシ但シ鉱山ノ状況ニ依リ必要ト認メタルトキハ鉱務監督署長ハ採掘権者ニ其ノ提出期若クハ提出回数ノ変更ヲ命スルコトヲ得

第五十条 鉱業簿ニハ鉱業資本、鉱物採取高、其ノ販売高、販売代価、採掘日数及鉱夫数等ヲ詳細記載スヘシ

母岩ノ種類及其ノ性質並ニ其ノ開鑿支柱等ノ工事ニ及ホス影響

二 試掘及開坑ニ関スル事項

試掘スヘキ鉱床ノ位置及試掘ノ順序方法

新開ノ堅坑、斜坑又ハ横坑ノ位置方向、高濶延長、竣工期日、開鑿方法及其ノ目的並ニ坑口ノ装置

通風排水及運搬方法

鉱夫数及使用機械ノ原動力

積水毒気及盤岩等ノ工事ニ及ホスヘキ危険ノ有無並ニ其ノ予防方法

三 採掘ニ関スル事項

採掘スヘキ鉱床ノ位置名称及採掘ノ順序方法

粗鉱ノ数量並ニ其ノ最低品質及平均品質

坑水及廃石ノ数量並ニ其ノ品質及其ノ処分方法

通風排水及運搬方法

鉱夫数及使用機械ノ原動力

積水毒気及盤岩等ノ工事ニ及ホス危険ノ有無並ニ其ノ

予防方法

四 撰鉱ニ関スル事項

毎年一月及七月ニ前六箇月ノ鉱業簿ノ複本一通ヲ調製シ一箇月内ニ鉱務監督署長ニ差出シ其ノ査閲ニ備フヘシ

第五十一条 毎年一月ニ鉱業明細表ヲ調製シ前年ノ鉱物採取高、其ノ販売高、販売代価、採掘日数及鉱夫数ヲ詳細記載シテ鉱務監督署長ニ差出シ精査ヲ受クヘシ

第五十二条 前三条ノ規定ニ依リテ差出スヘキ坑内実測図、鉱業明細表、鉱業簿等ノ書類ハ鉱業権ノ消滅又ハ移転ノ場合ニ鉱業権ヲ有セシ者ニ於テ登録ノ日より三十日以内ニ差出スコトヲ要ス

第五十三条 坑内実測図及鉱業簿ノ各複本並ニ鉱業明細表ヲ差出ス場合ニ於テ記載スヘキ事項ナキトキハ其ノ旨ヲ明示シ追加スヘキモアルトキハ之ヲ附記スルコトヲ得第五十四条 鉱業計画書ニハ左記ノ各事項ヲ詳細記載シ且図面ヲ調製シ説明書ヲ附シ事業着手ノ日より三十日以内ニハ鉱務監督署長ニ差出シ審定ヲ受クヘシ

一 鉱床ニ関スル事項

主要鉱床ノ位置並ニ其ノ厚度及走向、傾斜等

主要断層ノ位置其ノ鉱床ニ及ホス影響

主タル鉱物及従タル鉱物ノ種類並ニ其ノ成分

撰鉱ノ順序及其ノ方法

精粗各鉱ノ数量並ニ精鉱ノ種類及其ノ品質

廃水及鉱滓ノ数量並ニ其ノ品質及其ノ処分方法

鉱夫数及使用機械ノ原動力

五 製鍊ニ関スル事項

製鍊ノ順序及其ノ方法

精鉱ノ数量並ニ鍊出ノ種類及其ノ数量

煙、廃水、鉱滓ノ各数量及其ノ品質並ニ其ノ処分方法

法

鉱夫数及使用機械ノ原動力

鉱業ノ種類並ニ其ノ状況ニ依リテ前記各項ノ規定ニ從ヒ記載スルコト能ハサルモノハ其ノ理由ヲ明示スヘシ

第五十五条 鉱業条例第四十四条ノ規定ニ依リ鉱務監督署長事業計画書ヲ審定スルニ当リ符合セサル点アルヲ認メタル場合ハ一箇月以上三箇月以下ノ期限ヲ附シテ其ノ改正ヲ命スルコトヲ得

第五十六条 鉱業条例第四十四条第三項ノ規定ニ依リ凡テ事業計画書ヲ変更スルトキハ願書ニ新事業計画並ニ其ノ変更理由ヲ詳細記載シテ審定ヲ願出ツヘシ

第五十七條 数鉱区ヲ合併経営ヲ為ス場合ニ於テハ第四十九條乃至第五十二條及第五十四條、第五十六條ノ図面書類等ハ合併シテ之ヲ調製スルコトヲ得

第五十八條 鉱業条例第五十條ノ規定ニ依リ吏員ヲ派遣シ臨検方ヲ出願スルトキハ其ノ願書ニ調査区域及其ノ理由ヲ詳細ニ記載スヘシ

鉱務監督署長前項ノ出願ヲ許可スルトキハ通知書ニ調査日数及之ニ要スル人夫、物品ヲ記載シテ出願人ニ交附スヘシ

出願人ハ人夫及物品等ヲ準備シ期日ニ現場ニ至リ立会フヘシ

第五十九條 鉱業条例第五十三條ノ規定ニ依リ他人ノ土地ニ於テ測量又ハ検査等ヲ為サンコトヲ出願スルトキハ其ノ願書ニ土地ノ名称、種類及其ノ目的ヲ詳細記載スヘシ

第六十條 鉱業条例第五十四條ノ規定ニ依リ障礙物ノ除却ヲ出願スルトキハ其ノ願書ニ障礙物ノ種類、名称、現存ノ場所、所有者及占有者ノ氏名、称号並ニ予定価額ヲ詳細記載スヘシ

第六十一條 鉱業条例第五十三條及第五十四條ノ規定ニ依

リ他人ノ土地ニ立入り又ハ之ヲ使用シ若クハ障礙物ヲ除却セントスルトキハ鉱務監督署長ノ許可証ヲ携帯スヘシ

第六十二條 鉱業条例第五十五條ノ規定ニ依リ他人ノ土地ニ立入り又ハ之ヲ使用セントスルトキハ土地ノ名称、占有者ノ氏名、称号及其ノ目的ヲ詳細届出ツヘシ

前項ノ届出ハ電信ヲ以テ之ヲ為スコトヲ得電信ヲ以テ回答ヲ得ントスルトキハ返電料ヲ電信局ニ前納スヘシ

第六十三條 鉱業条例第五十七條ノ規定ニ依リ他人ノ土地ノ使用ヲ出願スルトキハ其ノ願書ニ土地ノ名称、種類、所有者ノ氏名、称号、住所及使用ノ目的、時期ヲ詳細記載シ且該地ノ実測図及工事計畫書ヲ一併差出スヘシ

前項ノ權利ヲ取得シタル後鉱業権者ニ於テ使用ヲ始メタルトキ、使用ヲ終リタルトキ又ハ使用セザリシトキハ何レモ隨時届出ツヘシ

第六十四條 鉱業権者鉱業条例ニ基ヅキ他人ノ土地ニ付權利ヲ取得シタルトキハ、土地ノ名称、種類、所有者ノ氏名、住所、使用ノ目的、時期並ニ補償金、担保等ヲ詳細ニ届出ツヘシ

第六十五條 鉱業条例第十八條第三項ノ規定ニ依リ隧道ヲ

開鑿スル場合ニ於テ鉱区トナスノ許可ヲ望マサルカ若クハ申出ヲナサ、ルトキハ他人ニ於テ鉱区トナスノ許可ヲ出願スルヲ得

他人ニ於テ鉱業権ヲ取得シタルトキハ既存ノ隧道開通工事ヲ破壊シ又ハ改造シ若クハ之ニ干与スルコトヲ得ス

第六十六條 隧道開鑿ノ為隣接鉱区ニ掘進セントスルトキハ隣接鉱業権者ト協議ヲ遂ケ其ノ承諾証書ヲ得テ建造工事計畫ノ全図、分図ニ添付シテ差出シ鉱務監督署長ノ許可ヲ出願スヘシ

前項ノ隧道開鑿ノトキハ隣接鉱業権者ハ人ヲ派遣シテ其ノ工事ヲ監視スルコトヲ得其ノ処置ヲ不適當ト認メタルトキハ鉱務監督署長ニ吏員ヲ派遣シテ臨検方ヲ出願スルコトヲ得但シ直接干渉スルコトヲ得ス

隧道ノ開鑿カ公共利益ニ関スルトキハ隧道開鑿者ハ隣接鉱業権者ト公共保護ノ事項ニ関シ商議ヲ遂ケ契約ヲ締結シテ鉱務監督署長ノ許可ヲ出願スルコトヲ得

第六十七條 隣接鉱区内ニ於テ隧道ヲ開鑿スルニ際シ鉱物ヲ採取シタルトキハ直ニ之ヲ隣接鉱業権者ニ還付スヘシ

則ヲ定ムルトキハ左記ノ各事項ヲ以テ標準トナシ鉱業着手ノ日ヨリ二箇月間内ニ鉱務監督署長ニ差出シ許可ヲ申請スヘシ其ノ規則ヲ變更シタルトキ亦同シ

- 一 業務ノ種類及其ノ等級
- 二 雇傭及解雇ノ方法
- 三 各種類各等級ニ於ケル賃金
- 四 賃金支払期日
- 五 各種類ノ就業時間及其ノ交替ノ方法
- 六 休業日及其ノ他休業ニ関スル事項
- 七 老者、幼者、婦女ノ労働ニ関スル事項
- 八 一定ノ賞罰事項及其ノ等級

第六十九條 鉱業着手ノ日ヨリ鉱夫名簿ヲ備置キ鉱夫ノ氏名、年齢、本籍、履歴ノ要領、業務ノ種類、等級、雇傭及解雇ノ年月日並ニ雇傭期間等ヲ詳細記載スヘシ

前項ノ事項ニ異動アリタルトキハ何レモ隨時記載スヘシ

第七十條 鉱業条例第七十六條ノ規定ニ依リ鉱業権者ニ於テ扶助規則ヲ定メ鉱業着手ノ日ヨリ二箇月以内ニ鉱務監督署長ニ差出シ許可ヲ申請スヘシ同規則ハ左記ノ各項ヲ以テ標準トナス

七 中国鉱業条例ニ関スル件 二二四

- 一 診察費及治療費
 - 二 療養ノ為就業スル能ハサルトキハ其ノ日数ニ相当スル賃金額ノ三分ノ一以上ノ扶助金ヲ与フヘシ
 - 三 葬祭料八十元以上タルヘシ
 - 四 遺族扶助料ハ死者ノ賃金百日以上ニ相当スル金額ヲ給与スヘシ
 - 五 癈疾者扶助料ハ其ノ賃金百日以上ニ相当スル金額ヲ給与スヘシ
- 但シ工事受請ノ労働者ニ対スル第二項ノ扶助金及第四項第五項ノ扶助料ニ付テハ前三十日間ニ得タル賃金ニ依リ毎日平均ノ賃金額ヲ算出スヘシ
- 第七十一条 鉱業条例第七十九条ノ規定ニ依リ鉱業権者ハ毎年十二月及六月ニ於テ予メ次期六箇月分ノ鉱区税ヲ鉱務監督署ニ納付シ領収証ヲ受取ルヘシ
- 鉱業権者ハ鉱区ノ分割、合併出願ノ場合ヲ除キ鉱業権ノ設定又ハ変更ノ登録ヲ為ストキハ登録ニ際シ登録以後第一期ニ納ムヘキ鉱区税ヲ月割計算ニテ納付スヘシ
- 第七十二条 鉱業条例第八十一条ノ規定ニ依リ鉱業権者ハ毎年一月及七月ニ於テ前六箇月間（即チ七月乃至十二月

三八〇

及一月乃至六月）ノ鉱物採取高ニ依リ鉱産税ヲ鉱務監督署ニ納付シ領収証ヲ受取ルヘシ

鉱産税ノ税額ハ農商総長ニ於テ毎年十二月及六月各鉱務監督署長ノ報告ニ依ル前六箇月間各省産出鉱物ノ市価ニ照シ平均精算シ以テ鉱産税徴収ノ標準トナシ各鉱務監督署長ニ通告シテ納付方ヲ命スヘシ

第七十三条 鉱産税徴収ハ鉱業権者ノ差出シタル鉱業簿ノ複本ニ依リテ精算スヘシ

第七十四条 鉱業条例第八十九条第一項及第九十一条第一項ノ規定ニ依リ裁決ヲ申請スルトキハ申請書ニ其ノ理由、目的、交渉ノ顛末及左記ノ各項ヲ詳細記載シ且申請地ニ於ケル工事又ハ鉱床ノ關係図ヲ添付シテ差出スヘシ

一 申請人ノ氏名、称号及住所

一 隣接鉱業権者又ハ所有者及關係人ノ氏名、称号及住所

一 鉱業権者ノ登録番号

鉱務監督署長ハ申請書ヲ受理シタル後直ニ隣接鉱業権者又ハ所有者及關係人ニ通知シ期限ヲ附シテ答弁書ヲ差出サシムヘシ

隣接鉱業権者又ハ所有者及關係人期限内ニ答弁書ヲ差出ス能ハサルトキハ鉱務監督署長ハ直ニ裁決ヲ為シ裁決書ノ写ヲ雙方ニ交付スヘシ

第七十五条 鉱業条例第八十九条第二項及第九十一条第二項ノ規定ニ依リ訴願ヲ提起スルトキハ鉱務監督署長ノ与ヘタル裁決書ノ写ヲ願書ニ添付シテ差出スヘシ

前項ノ訴願ニハ前条ノ規定ヲ準用ス

第七十六条 鉱業条例第八十八条、第八十九条第二項、第九十条及第九十一条第二項ノ規定ニ依リ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルトキハ七日以内ニ其ノ理由ヲ鉱務監督署長ニ届出ツヘシ

第七十七条 鉱業条例第九十二条ノ規定ニ依ル処分又ハ裁決ノ公示ハ一切公報ニ登載スヘシ但シ本細則第三十九条ノ却下ニ関スル事項ハ鉱務監督署ニ揭示スヘシ

第七十八条 鉱業出願人又ハ鉱業権者左ノ場合ニ該当スルトキハ二十五元以下ノ罰金ニ処ス

本細則第二十八条、第二十九条、第四十四条、第四十五条、第四十六条、第五十条、第五十一条、第五十二条、第五十八条、第六十一条、第六十四条、第七十六条ノ規

定ニ違背シタルトキ

第二十四条ノ規定ニ依リ期限内ニ計画書ヲ提出スルコト能ハサルカ又ハ命令ニ從テ訂正セサルカ若クハ訂正スルモ審定ヲ出願セサルトキ

第二十六条ノ規定ニ依ル指定ノ期日ニ立会フコト能ハサルカ又ハ調査事項ヲ説明スルコト能ハサルトキ

第四十一条ノ規定ニ依リ期限内ニ変更ノ鉱区図ヲ提出スルコト能ハサルトキ

第七十条ノ規定ニ依リ期限内ニ扶助規則ヲ定メテ差出スコト能ハサルトキ

第八十二条ノ規定セル期限内ニ事務所ヲ届出ツルコト能ハサルトキ

第七十九条 第四十三条ノ規定ニ依リ鉱業代理人ノ届出ヲナストキハ凡テ鉱業権者、法定代理人又ハ法人ニ適用スル罰則ハ亦之ヲ鉱業代理人ニ適用ス

第八十条 本細則ハ第七十八条ヲ除キ凡テ官營ノ鉱業ニ之ヲ適用ス

附 則

第八十一条 本細則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

七 中国鉱業条例ニ関スル件 二二五

第八十二条 本細則施行ノ日ヨリ三箇月以内ニ各省鉱業権者ハ鉱区所在地又ハ鉱山附近ノ事務所ヲ所轄鉱務監督署長ニ届出ツヘシ未タ事務所ヲ設置スルニ至ラサルトキハ速ニ之ヲ設置シ期限内ニ届出ツヘシ

第八十三条 本細則施行前ノ各省官営民営又ハ内外共同経営ノ鉱業ニ付テハ鉱業管理ニ関スル一切ノ手續及其ノ他ノ行為カ鉱業条例及本細則ノ規定ニ照シ不完全ト認メタルトキハ総テ半年以内ニ鉱業条例及本細則ノ規定ニ從ヒ訂正又ハ補充スルヲ要ス

第八十四条 本細則施行前ノ各省ノ官営民営又ハ内外共同経営鉱業ニ付テハ鉱業管理ニ関スル一切ノ手續及其ノ他ノ行為ノ全部又ハ一部カ鉱業条例及本細則ノ規定ニ符合スルトキハ一切有効ト認ム

第八十五条 本細則施行前ニ政府ヨリ鉱業ノ許可ヲ受ケ居ルモ其ノ鉱区面積分明ナラサルカ又ハ一定ノ界限（某府県又某郷ラ指定スルカ）ナキトキハ本細則施行ノ日ヨリ半年以内ニ鉱業条例第十六条ノ規定ニ從ヒ鉱区ヲ劃定シテ裁定ヲ申請スヘシ已ムヲ得サルノ事由ニヨリ鉱区ヲ擴張スルノ必要アルトキハ本細則第十六条ノ規定ニ依リテ之ヲ処理スヘシ

三八二

第八十六条 本細則施行前ニ政府ヨリ試掘又ハ採掘ノ許可ヲ受ケタルモノニ付テ本細則第四十五条ノ期限ハ本細則施行ノ日ヨリ起算ス

二二五 四月三日 在奉天落合總領事ヨリ 牧野外務大臣宛（電報）

中国新鉱業条例ニ関シ在北京各国公使連名ニテ中国政府ニ抗議スルニ決定ノ件

第四七号

北京発四月二日第三四号

左ノ通外務大臣ヘ転電アリタシ

大臣宛第二六三号

往電第二〇八号（註）ニ関シ四月二日外交団會議ノ結果鉱業条例ハ第一外国資本ヲ注入スルニ不便ナル点尠ナカラサルト第二領事裁判権ニ抵触スル箇条アリトノ点ヲ以テ各国公使連名公書ヲ以テ支那政府ヘ抗議スルコト、ナレリ然ルニ支那側カ之レニ同意シ条例ヲ改正スルニハ多クノ日数ヲ要スヘク差当リ第四条ノ保障ヲ出願スルモノニ対シテハ如何措置スヘキヤノ問題ヲ丁抹国公使ヨリ提起シ同公使ハ過般同国人ニシテ右ノ証明ヲ願出タルニ対シ領事裁判権ニ関スル留

如キ懸念ナキニアラサルニ付寧ロ仏国公使ノ如ク単ニ出願者ノ署名ヲ証明スルノ形式ヲ採リ「右本人署名ニ相違ナキコトヲ証明ス」トノミ記シ置ク方可然ト思料ス 在奉天總領事ヘ郵報済ミ

二二七 四月六日 在奉天落合總領事ヨリ 牧野外務大臣宛（電報）

中国鉱業条例遵守ニ関スル領事証明発給ノ可否ニ付電訓方請稟ノ件

第四九号

貴電第三〇号（註）ニ関シ在支公使発電第二四五号及第二六三号ノ次第モ有之不遠何分ノ電訓アルコト、想像スルモ本問題ノ御決定如何ヲ待チ措置セント欲スル差懸リタル問題数多アルヲ以テ大体ナリトモ至急御電訓ヲ得ハ幸ナリ北京ヘ電報シタリ

註 三月十四日發外務大臣往電第三〇号ヲ省略ス該電報ハ鉱業条例遵守ニ関スル領事証明問題ニ付追テ回訓スベキ旨ヲ通報セルモノナリ

二二八 四月八日 牧野外務大臣ヨリ 在奉天落合總領事宛

三八三

保ヲナシ既ニ証明ヲ与ヘタリト云ヒ仏国公使ハ某仏国人カ同様ノ願出ヲナシタルニ対シ本人ノ自署ニ拘ハル条例遵守ノ宣言ニ対シ同宣言ノ内容ヲ証明スルヤ否ニ就テハ何等記載セス単ニ右ノ署名ハ本人ノ為セルモノニ相違ナキ事ノミヲ証明シ置キタリト語り結局証明書ノ事ニ付テハ各国公使館ノ適宜ニ委スコトニ一決シタリ

註 山座公使三月十三日發外務大臣宛電報第二〇八号省略ス該電報ハ新鉱業条例ニ関シ在北京露国公使ノ來談ヲ報告セルモノナリ

二二六 四月五日 在中国山座公使ヨリ 牧野外務大臣宛（電報）

中国鉱業条例遵守ニ関スル領事ノ証明ニ付意見具申ノ件

第二八一号

往電第二四五号末段稟議ニ関シテハ御詮議中ト察スル所外交団會議ノ結果ハ（往電第二六三号参照）本使予想ノ如ク抗議ニ決シタルモ其解決ハ余程手間取ルヘキニ付此際領事ニ於テ前稟中ノ如ク「但シ条約ノ規定ニ違フヲ得ス」トノ意味ヲ記入スレハ為ニ支那官憲ノ故障ヲ招キ時機ヲ失スル

七 中国鉱業条例ニ関スル件 二二六 二二七 二二八

中国鉱業条例遵守ニ関スル領事証明ハ署名証明ノ形式トナスベキ旨回訓ノ件

第五三号

左ノ通り在支公使ニ転電アリタシ

尚貴電第四九号稟申ノ件ハ右ニテ御承知アリタシ

第一七三号

貴電第二四五号末段ニ関シ

鉱業条例ハ大部ノモノニテ翻譯ニ手間取り未タ全部ニ涉リ研究ヲ尽サザルモ第四条ノ証明ハ差当リ貴電第二八一号御来示ノ形式「右本人署名ニ相違ナキコトヲ証明ス」ニヨルコトト致スヘキニ付右様御承知アリタシ

二二九 四月二十日

在上海村上総領事代理ヨリ
加藤外務大臣宛

日中合辦順濟鉱務公司ノ設立及中国鉱業条例

ニ関スル件

附屬書一 右公司設立規約

二 匿名合資契約書

機密第四一号

大正三年四月二十日

在上海

総領事代理 村上義温(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

当地大倉組支店ハ取締役門野重九郎ノ来滬ヲ機トシ支店長河野久太郎名儀ヲ以テ支那人管尚華(趾郷ト号シ蘇州人ニシテ当地「シーメンズ」商會買辦ノ業ニ従事シ資力三、四十万円、官辺ト多少ノ関係アル者ナリト云フ)葉養餘(養吾ト称シ東京高等商業学校卒業生ニシテ元申報記者タリ近ク江西省鉱山分署長ニ任用セラレタル者ノ由)等ト支那ニ於ケル鉱物ノ採掘冶金売買運輸等ヲ目的トシ支那鉱業条例其他ノ関係法規ヲ遵守スベキ資本額銀貳百万弗日支折半出資ノ一合資会社則チ順濟鉱務合資公司ナル者ヲ設立セン事ヲ約シ支那側反対ヲ防ノ手段トシテ表面別紙第一号写ノ規約ヲ作成シ之ガ公認ヲ当館ニ願出スルト共ニ内密別紙第二号写ノ通り楊易三(曩ニ江蘇鐵道支配人ニシテ蘇州選出議員タリ現ニ北京總務局長ノ職ニ在リ張謇ノ配下ニ属シ同人ヲ通シテ梁士詒トモ良ク過般密カニ来滬本件今後ノ進捗ニ関シ大倉組ト打合セタル者ナリト云フ)龔于英(元江蘇財政司ニシテ相当資力アル者ノ由)外前記二名トノ間ニ匿名

候処本件ニ関シテハ楊鉱務局長ニ於テ、江蘇浙江安徽ノ三省鉱務監督ニ黃羣ナル者ヲ、同江西湖北ニ周大烈ヲ、四川ニ張一鵬ヲ、江西鉱務分署長ニ葉養餘ヲ各々任命シ公司事業ノ進捗ニ努メ居レル趣ヲ以テ飽クマデ之ヲ秘密ニ附セラレタキ旨當事者ヨリ申出ノ次第モ有之候ニ就テハ右ニ御含置相成候様致度別紙相添へ(但漢文ヲ省ク)此段報告申進候 敬具

本信写送付先 山座公使

(附屬書一)

第一号写

規約

第一条 本公司ハ中国ニ於ケル鉱物ノ採掘冶金売買運輸其他之ニ附帶スル一切ノ業務ヲ営ムヲ以テ目的トス

第二条 本公司ヲ順濟鉱務合資公司ト称ス

第三条 本公司ノ資本ヲ銀貳百万弗トシ社員ノ住所氏名其出資額左ノ如シ

日本東京赤坂区新坂町 門野重九郎
銀七拾五万弗

上海九江路拾七号 河野久太郎
銀貳拾五万弗

銀五拾万弗 上海黃羅路三號 管 尚 華

銀式拾五万弗 上海嵩山路八十二號 龔 潔

銀式拾五万弗 上海北四川路麦拿里三十九號 葉 養 齋

第四条 本公司ノ存続期間ハ參拾ヶ年トシ期間滿了ノ際社員ノ合議ニ依リ更ニ繼續スルモノトス

第五条 本公司ハ中華民國鉱業条例及其他關係諸法律ヲ遵守スルモノトス

第六条 本公司ハ本店ヲ上海ニ置キ支店及鉱業所ハ随時開設スルモノトス

第七条 出資者ノ退社若クハ讓渡ハ全社員ノ同意ヲ得ルニアラサレバ之ヲナスコトヲ得ス

第八条 本公司ハ毎年三月及九月ノ兩度ニ於テ會計ノ決算ヲナシ爾後三十日以内ニ於テ社員ノ總會ヲ開キ該期間ノ事業報告損益計算並ニ後期事業計畫等ヲ付議シ過半数ノ同意ヲ以テ之ヲ議決スルモノトス

第九条 總理ニ於テ必要ト認メタル時又ハ社員三分一以上ノ同意ヲ以テ請求アリタルトキハ臨時ニ總會ヲ開クコト

第二号写

匿名合資契約書

一 中華民國合資組合員代表管趾卿 (以下甲ト称ス) ト日本帝國合資組合員代表河野久太郎 (以下乙ト称ス) トノ間ニ匿名合資組合契約ヲ為ス事左ノ如シ

一 本組合ヲ順濟合資公司ト称ス

一 本組合ノ資本ヲ洋二百万弗トシ甲乙等分ニ出資スルモノトス

一 本組合ハ中国ニ於ケル礦物ノ採掘冶金及礦物ノ売買其他礦務ニ関スル一切ノ業務ヲ為スヲ目的トス

一 本組合ハ中日兩國政府ニ向テ登記ヲ為スモノトス

一 本組合ノ營業期限ヲ登記ノ日ヨリ起リ三拾箇年トス

一 本組合ニ左ノ役員ヲ置ク

督弁一人 (中国人) 甲ニ於テ選定ス理事三名ハ (中国人一名) 甲ニ於テ選定ス (日本人二名) 乙ニ於テ選定ス技師長一名 (日本人) 乙ニ於テ選定ス事務員若干技師若干甲乙ニ於テ選定ス

一 督弁ハ本組合全般ノ監督及中国官衙交渉ノ衝ニ当ルモノトス

アルヘシ

第十条 本公司ノ役員ハ總會ニ於テ中日社員各二名ヲ理事ニ選任シ理事会ニ於テ更ニ中国社員理事一名ヲ總理ニ推選シ万般ノ事務ヲ統轄スルモノトス

前項總理及理事ノ任期ハ三年トシ再選スルコトヲ妨ケス

第十一条 技師長以下事務ニ必要ナル社員ノ選任並ニ其權限等ハ理事会ニ於テ之ヲ定ム

第十二条 本文ハ中日文字ニテ各五通之ヲ作成シ農商總長、鉱務監督署長、在上海日本總領事へ各一通宛送呈シ中日股東各一通ヲ保存シ後日若シ意義不明アリタルトキハ專ラ中国文字ニ依リテ解決スルモノトス

順濟鉱務合資公司

民國三年四月十五日

大正三年四月十五日

理事總理	管 尚 華
理事代理	門野重九郎
理事	河野久太郎
理事	河野久太郎
理事	葉 養 齋

(附屬書二)

一 理事三名ノ内日人理事一名ヲ專務理事トシ業務ノ計畫執行一切ヲ担任スルモノトス

一 他ノ二名ノ理事ハ專務理事ヲ助ケテ業務ヲ進行セシムルモノトス

一 技師長技師及事務員ハ理事ノ指図ニヨリ業務ヲ担当スルモノトス

一 本組合ハ營業期限内ニ於テ解散又ハ分離スルコトヲ得ス満期ノ場合ハ總會ノ組合員ノ同意ニヨリ更ニ繼續スルコトヲ得ルモノトス

一 本組合ニ加入シ又ハ退カントスルモノアル時ハ總會ノ組合員ノ同意ヲ得ルヲ要ス

一 督弁理事ノ在職期限ヲ三年トシ再選スル事ヲ得ルモノトス

一 本組合ハ本店ヲ上海ニ置キ必要ノ場所ニ支店出張所ヲ設置スルモノトス

一 本組合ノ利益分配ヲ左ノ如ク定ム

一 利益ノ十分ノ一ヲ積立トス

二 利益ノ十分ノ一ヲ役員賞与トス

三 利益ノ十分ノ八ヲ資金ニ對スル配当トス

七 中国鉱業条例ニ関スル件 二三〇

但シ其配当額一割以上ノ場合ハ甲乙ノ決議ニヨリ特別積立ヲ為スモノトス

- 一 本組合ノ資本ヲ洋二百万弗トシ甲乙等分ニ出資スルモノトス若シ甲ニ於テ出資不能ノ場合ハ乙ニ於テ立替ヲ為スモノトス

但シ此立替金ノ利息ハ上海正金銀行貸付利息ト同率トス

- 一 礦質調査ノ責任ハ乙ニ於テ之ヲ負フ地点決定ノ後直ニ採掘ヲ実行ス此場合ニ第一期計画資金トシテ雙方洋五万弗迄必要ニ応シテ出資スルモノトシ別ニ出資セントスル場合ハ甲ノ出資ハ前条ノ規定ヲ準用ス

- 一 中国政府ニ於テ発布シタル礦務条例ハ本組合之ヲ遵守シ而シテ本契約ニ未タ載明セサル規定ハ日本商法ニ依ルモノトス

但シ日本商法中中国商法又ハ中国慣習ニ抵触アル場合ハ双方協議ノ上之ヲ決定スルモノトス

- 一 本組合ノ細則ハ督弁理事協議ノ上必要ニ応シ別ニ之ヲ定ムルモノトス

- 一 兩國官衙ニ対スル届出スヘキ合資会社規則ハ督弁理事

特命全權公使 山座円次郎(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

上海ニ於テ大倉組門野河野ノ二人ト支那人管龔葉トノ間ニ組織サレタル順濟礦務合資公司ノ契約ハ在上海村上總領事代理ノ認証ヲ得タル上同公司支那側ノ代表管祥麟ナル者出京シ農商部ヘ右契約提出致候処同部ニ於テ尚日本公使ノ証明書ヲ添付スルノ必要アリ然ラサレバ認可シ難シト申渡サレ候趣ニテ同人来館証明書下附方願出候然ルニ右契約第五条ニハ「本公司ハ中華民國鉱業条例及其他關係諸法律ヲ遵守スルモノトス」ト規定有之支那鉱業条例第四条ノ規定ニ該当致候処右ノ規定ニ関シテハ外交団會議ノ結果支那政府ニ抗議スルコトナリタルモ(右抗議ノコトハ本月二日ノ外交団會議ニテ決定シ米露兩國公使其起草委員タルモ今以テ出来不致モノノ如ク過般首席公使ニ相尋候処米国公使不快ナリシ為メ遅延セルナランカト答へ候)一面帝國臣民ニ對シテハ若シ証明ヲ与フル必要生ジタルトキハ「右本人ノ署名ニ相連ナキコトヲ証明ス」ト記スルコトニ御決定相成居候処今回管祥麟持参ノ契約書ヲ閱スルニ契約当事者ナル門野河野二人ノ姓名ハ共ニ本人ノ自署ニアラズシテ単ニ捺

七 中国鉱業条例ニ関スル件 二三〇

三八八

協議ノ上之ヲ決定スルモノトス

- 一 本契約書ハ日文中文二通宛ヲ作成シ甲乙之ヲ保存スルモノトス

中華民國三年二月一日

日本大正三年二月一日

中華民国合資組合員

管趾卿

楊易三

龔于英

葉養吾

日本帝國合資組合員

河野久太郎

二三〇 四月二十七日 在中国山座公使ヨリ
加藤外務大臣宛

順濟鉱務合資公司ノ契約ニ対スル証明方ニ関

シ報告ノ件

機密第一七六号

大正三年四月二十七日

在支那

印シタルモノナルコト判然タルヲ以テ前記ノ形式ニ抛ル訳ニモ参ラス仍テ管ヲシテ新ニ契約書ヲ作成シ干係日本人ヲシテ自署セシム可キ旨申聞ケ候得共斯クテハ又タ日子ヲ要シ其間如何ナル故障ノ生ゼザルモノニモ限ラス此際至急確定ノ必要アルニ付何トカ可然証明ヲ与ヘラレタク農商部当局者ノ話ニ独仏其他ノ諸公使館モ証明ヲ与ヘ居ル由ナリトテ懇請ニ及ビ一方河野久太郎ヨリモ書面ヲ以テ若シ当館ノ証明ヲ要スル場合ニハ便宜取計ヒ呉候様願出モ有之候ニ付本使ニ於テモ種々考究ノ末単ニ「右見証ス」ト云フカ如キ漠然タル文字ヲ用フルトセバ必要ノ場合ニハ鉱業条例第四条ノ規定ニ対スル証明ニアラズシテ唯契約書ヲ見其成立ヲ証スルノ意味ナリトカ其他我方ニ於テ適宜ナル解釈ヲ為シ得可ク殊ニ順濟鉱務合資公司ナルモノハ日本ノ法律ニ抛リテ組織シタル会社ニアラズ且ツ当館ハ干係日本人カ自ラ直接ニ鉱業条例第四条ノ規定ニ遵ヒ支那ノ法律ニ服従ス可キ旨ヲ証明スル次第第二ハ勿論無之ヲ以テ旁々差支ナシト認メ管祥麟ヲシテ楊鉱務局長ヘモ内々相談ヲ遂ケシメタル結果本契約ノ末尾ニ公使館ノ用紙ヲ貼付シ之ニ単ニ「見証ス」ト記シ年月日本使官氏名ヲ記スルノミニ止ムルコトトシ即

三八九

チ別紙ノ通り取計置候

尚本件ニ関シ河野久太郎ヨリ本使ヘノ内報ニヨレハ右公司ハ既ニ江西省豊城炭鉱採掘ノ許可ヲ得ルコトニ相成居リ続テ同省楽平ヲ出願手配中ニシテ楊鉱山局長モ内々之ニ利害ヲ有シ内部ヨリ帮助シ居ル由ニ有之候右秘密ノ御含迄申添候也

本信写送附先 在上海村上総領事代理

(別紙)

謹將華洋合資規約繕明清摺送呈

查核

計開

第一條 本公司以採鑛冶金賣買運輸及其他關於鑛務一切事宜爲目的

第二條 本公司定名爲順濟鑛務合資公司

第三條 本公司資本定爲銀二百萬元合資人之住所姓名出資數目開列於左

銀七十五萬元	日本東京市赤坂區新坂町
	門野重九郎
銀二十五萬元	上海九江路十七號
	河野久太郎

總理理事之任期爲三年再選再任

第十一條 總工程師及事務員之選任及權限等由理事會決定之

第十二條 本規約以中日文字各繕五份以二份呈農商總長及鑛務監督署長立案以一份交在上海日本總領事一份存中國股東一份存日本股東遇有意義不明之處專以中文字意爲憑

順濟鑛務合資公司(印)

民國三年四月十五日

大正三年四月十五日

理事總理	管 尙 華(印)
代理	門野重九郎
理事	河野久太郎(印)
理事	河野久太郎(印)
理事	葉 養 蘇(印)

第九號

右認證ス

大正參年四月十八日

在上海日本總領事館

總領事代理 村上義溫(印)

右見證ス

七 中国鉱業条例ニ関スル件 二三一

銀五十萬元

上海黃羅路三號 管 尙 華

銀二十五萬元

上海嵩山路八十二號 龔 潔

銀二十五萬元

上海北四川路麥拿里三十九號 葉 養 蘇

第四條 本公司之存續期限定爲三十年期滿後以合資人會之議決得延長之

第五條 本公司議定所有中國鑛業條例及其他關係諸法律俱願遵守

第六條 本公司設總行於上海鑛業事務所及分行隨時開設

第七條 出資者之退社及讓給非得全體合資人之同意不得行

第八條 本公司於每年三月及九月決算賬目二次爾後儘三十日以内開合資人總會交議該期間之事業報告損益計算及後期事業計劃等以過半數之同意議決之

第九條 總理認爲必要時或於合資人三分之一以上之同意請求時得開臨時合資人總會

第十條 本公司之職員由合資人總會自出資者中選舉理事四員中日各二更由理事會選出中國理事一員任總理統轄内外一切事務

大正參年四月貳拾參日

大日本國特命全權公使 山座圓次郎(印)

以下餘白

註 右規約ノ和文省略ス

二三一 五月一日 在中国山座公使ヨリ
加藤外務大臣宛

中国鉱業条例ニ関シ外交団ヨリ外交部宛抗議

案送付ノ件

附屬書 右抗議案文亨

機密第一八七号

(五月八日接受)

大正三年五月一日

在支那

特命全權公使 山座円次郎(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

先般支那政府ノ制定發布ニ係ル鉱業条例ニ関シ四月二日外交団會議ノ結果同条例ハ外国資本ヲ注入スルニ不便ナルト又領事裁判權ニ抵触スル簡条アリ等ノ故ヲ以テ外交団ヨリ外交部ニ対シ抗議スルコト、相成リ候次第ハ同日往電第二六三号(奉天總領事經由)ヲ以テ報告致置候通ニ有之候処

米露兩公使ニ起草方依頼セル同抗議案此程別紙写ノ通り出来四月二十八日回章ヲ以テ本使ノ査閲ニ供セラレ候

右抗議案ニハ鉱業条例第四条ニ規定セル公使館又ハ領事館ノ証明ニ関シテハ単ニ本人ノ署名ノ正確ナルコトヲ証明スルノ外他ニ証明スルコトヲ得スト記載致候処右ハ四月二日ノ外交団會議ニ於テ右様記述方決議シタル次第ニハ無之候得共別段差支ナク且本使閱覽前ニ廻附サレタル各国公使ハ(強国公使ノ凡テヲ含ム)何レモ原案ノ儘同意ヲ表シ居候ニ付本使モ同様ニ致置候自然残余ノ公使ニ於テ異論マラン格別ナレドモ多分原案ノ通り決定可致ト存候
右不取敢及報告候也

(附屬書)

中国鉱業条例ニ関スル外交団ヨリ外交部宛抗議案文写

DRAFT of a note on the Mining Enterprise Regulations
to the Wai Chiao Pu.

Sir:

I have the honour to inform Your Excellency that the Diplomatic Body have duly considered the Mining Enterprise Regulations, published by the Government

on March 11, 1914, and that they have arrived at the following conclusions:

Article 4 makes it incumbent upon any foreign subjects who may desire to engage in mining enterprise to secure a certificate, issued by their own diplomatic or consular officer, proving that they are willing to be subject to these Regulations. Unless confined to a mere witnessing of the signature such certificates can not be issued by diplomatic or consular officers, as such issuance would involve approval of the Regulations, which must be considered inadequate in the following respects:

1. The security of the investment is not sufficiently protected. More especially, Article 46 provides that a mining right shall be cancelled for the following, among other, grounds: when the mining enterprise injures the public interest; when there is noncompliance with the orders of the police; when the plans and descriptions given are not followed and when any mining tax is unpaid upon falling due. The forfeiture of a right upon which much capital may have been expended, on so indefinite a ground as that "it injures public interest" or for noncompliance with regulations so minute as

those contained in Article 54 of the Detailed Regulations for Mining Enterprises, issued April 2, 1914 (together with plans and descriptions), would be an excessive penalty, incompatible with due protection of property rights.

2. While persons engaging in mining should be subject to administrative regulations properly made, foreign citizens would not thereby give up the rights of extra-territorial jurisdiction enjoyed under existing treaties. Insofar as implying the surrender of such rights, it would be necessary to modify Article 93.

3. The provision that foreign subjects are not to hold more than one-half of the total number of shares of the mining concern is not consonant with the promise contained in the Treaty of 1902 between China and Great Britain to the effect that foreign capitalists shall not be placed at a greater disadvantage than they would be under generally accepted foreign regulations. Efficient development of mining resources through participation of foreign capitalists, can be secured only by according to the latter the right to own or lease mining properties.

For the above reasons, the Diplomatic Body find

it impossible to accept the Mining Regulations, as in agreement with the treaty rights accorded, until they shall have been further modified in accordance with the above suggestions: and I have the honour to give Your Excellency this notification in order to avoid any misunderstanding.

I avail etc.

二四二 五月六日 在中国山座公使ヨリ
加藤外務大臣宛

中国鉱業登録条例公布ノ件

公第一五一号 (五月十四日接受)

大正三年五月六日

在支那

特命全權公使 山座円次郎(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

五月三日附大總統令ヲ以テ鉱業註冊条例三章四十九ケ条ヲ公布シ即日ヨリ実施ノ事ト相成候本条例ハ乃チ鉱業権登録ニ関スル条例ニテ第一章総則内第四条ニ登録主要事項ヲ

一 鉱業権ノ設立變更移転消滅更正

二 鉱業権ヲ抵当トスル時ハ其ノ抵当権ノ設立消滅及制

限

トシ第五条ニ附記登録事項ヲ

- 一 登録名義人表示ノ変更或ハ更正
- 二 合資鉱業権者ノ引退或ハ代表人ノ改定
- 三 抵当権ノ移転又ハ変更

トシ其第八条ニ鉱業登録簿ハ試掘採掘ノ二種トシ其第十条ニ登録手数料ヲ定メタリ手数料納付ノ項目八十四款二十二項目ニテ試掘権ノ登録ニハ一件一百元採掘権ノ設立ハ一件二百元而シテ其鉱区ハ每二方里ヲ以テ起算シ以上一方里ヲ加フル毎ニ試掘五十元採掘百元ヲ増加ス又抵当権ノ設定ハ債権額ノ十分ノ六其他採掘権ノ変更一件五十元等ニテ第二章ニハ登録手續ヲ規定シ其第一節通則第十七条内第四項ニ外国人合資事業ノ登録ニハ鉱業条例第四条第三項ノ証明書添付ヲ要スル旨ヲ明記セリ又同章第二節ハ鉱業権ノ登録第三節ハ抵当権ノ登録第四節ハ取消登録ニ関スル手續ヲ規定シ第三章登録ニ関スル異議ニ際スル規定ニ有之附則第四十九条ニ本条例施行前各地方官業民業或ハ中外合資ノ鉱業ハ本条例施行ノ日ヨリ六ヶ月以内ニ本条例ニヨリ登録ノ手續ヲ為スコキ旨ヲ規定セリ以上ハ本条例内容ノ要点ニ有之候得共委細ハ別紙本文ニ就テ御詳悉相成度此段及報告候也

鉱区図及採掘計画書審査主任者指名ノ件

農商部鉱政局局令第一号（訳文）

鉱業出願人ノ提出セル鉱区図及採掘計画書ハ先ツ各該監督署ノ技正ニ於テ審査ノ上之ニ署名捺印スヘキ旨ハ既ニ各監督署ニ及移牒置キタル通りナルカ各該監督署ヨリ農商部ニ差出シタルトキハ更ニ農商部ニ於テ再審査ヲナスヘキニ付キ石炭礦ニシテ十方里以上其他ノ鉱ニシテ五方里以上ニ及フモノハ本局ニ於テ技監ニ委託シテ審査スヘキモ其他ハ本局ニテ直接ニ受付ケ又ハ各監督署ヨリ差出シタル鉱区図及採掘計画書ハ何レモ技正張景光、王紹瀛、朱行中ニ於テ審査シ署名捺印シテ其責任ヲ明ニスヘシ

中華民國三年五月八日

農商部鉱政局長 楊廷棟

（附屬書二）

外国文契約書審査主任者指名ノ件

農商部鉱政局局令第二号（訳文）

内外人ノ鉱業共同経営ニ関シテハ鉱業条例ニ明白ナル規定アリ其締結セル内外文ノ契約書ハ当部ノ認可ヲ経ルヲ要スルヲ以テ速ニ吏員ヲ任命シテ之ヲ審査ヲ分担セシムヘシ茲

七 中国鉱業条例ニ関スル件 二三四

註 鉱業註冊（登録） 条例省略

二三三 五月十九日 在中國山座公使ヨリ
加藤外務大臣宛

鉱業登録条例施行細則訳文送付ノ件

附屬書一 中華民國三年五月八日附農商部鉱政局局令第

一号

一 鉱区図及採掘計画書審査主任者指名ノ件

二 同右第二号

外国文契約書審査主任者指名ノ件

公第一八〇号

（五月二十七日接受）

大正三年五月十九日

在支那

特命全權公使 山座円次郎（印）

外務大臣男爵 加藤高明殿

本条例施行細則ハ五月十二日發刊政府公報ヲ以テ公布シ又鉱区図及採掘計画書ノ審訂主任者並ニ各外国文契約書審訂主任者ヲ指定シ局令ヲ以テ發布致シ候ニ付右訳文一併及御送附候間御査閱相成度候也

註 鉱業登録条例施行細則訳文省略

（附屬書一）

ニ技正沈步淵、辦事員楊蔭樾ヲシテ英文ノ鉱務契約ヲ、技士陶鎔、辦事員楊蔭樾ヲシテ仏文ノ鉱務契約ヲ、技正王季点、僉事顧德鄰ヲシテ日本文鉱務契約ヲ、辦事員楊蔭樾ヲシテ独乙文ノ鉱務契約ヲ、夫々審査セシムヘシ尚審査シタル上ハ夫々署名捺印シテ其責任ヲ明ニスヘシ

中華民國三年五月八日

農商部鉱政局局長 楊廷棟

二三四 五月二十七日 在奉天落合總領事ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）

中国鉱業条例ニ関スル外交団ノ抗議ニ付章農

商總長及周農商次長ノ見解報告ノ件

第一〇二号

北京發五月二十七日第六八号

第四〇八号

鉱業条例ニ関シ五月一日附機密第一八七号拙信添附抗議書ハ其後外交団ノ同意ヲ得主席公使ヨリ外交部ニ提出シタルガ本使ハ五月十四日章農商總長ニ面会ノ節其意見ヲ尋ネタルニ章ハ外交団ヨリ不滿ノ意ヲ表シ来リ居ル点ハ主トシテ条例ノ解釈問題ニ過キス即チ第一公益云々等ニ付テハ支那

政府ニ於テ之ヲ広義ニ解シ猥リニ合辦者タル外国人ノ權利ヲ取消ス如キコトハ無論為サ、ルヘク第二条例第九十三条ノ規定ハ決シテ領事裁判權ヲ侵蝕セントスルモノニアラス若シ外国人ニシテ鉱務署長ノ裁決ニ服セサレハ其以上ハ条約ノ規定ニ依リテ処置スルノ外ナク第三株券割合ニ至リテハ支那政府自カラ之ヲ定メ得ヘキモノナルノミナラス株券ハ無記名トナサハ實際ニ於テ外国人ハ二分ノ一以上幾許ニテモ所有シ得ヘク就テハ外国公使又ハ領事ニ於テ条例第四条ノ証明ヲ与フルモ何等差支ナカルヘク且証明ノ形式ハ強テ論スルノ要ナシト云ヒタリ又五月二十五日周農商次長ハ証明方法ハ各国内ニシテ一定セス元來政府ノ目的ハ外国ノ資本ヲ歡迎シ以テ鉱業ヲ發展セシメントスルニアルガ故ニ形式ニハ重キヲ措カズ要スルニ外国人ノ国籍ト其確實ナル人物ナルコトノ証明サヘアレハ可ナリト云ヒタルニ付今日迄外国人カ新条例ニ依リ合辦ヲ出願シタルモノ多々有之ヤト問ヒタルニ周ハ然リ就中英人最多キ様ナリ尚滿洲ノ礦山ニ関シテ出願者少ナカラスト云ヒタル故本使ハソハ日本国ニ取り甚タ容易ナラサル次第ナリトテ其場所等ヲ質問シタルニ周ハ滿洲ト云フモ主トシテ黑竜江省等北方地方

中国新鉱業条例ニ依ル鉱業權ノ登記、鉱山採掘ノ願書提出等ニ関シ第二区鉱務監督署ヨリ
照会越ニ付請訓ノ件

機密公信第三七号

(六月二十三日接受)

大正三年六月十八日

在安東

領事 吉 田 茂(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

第二区鉱務監督署開庁ノ通知ニ関シテハ本月九日附公信第九五号ヲ以テ及御報告置候処今般同署ヨリ鉱業条例、鉱業條例施行細則、鉱業註冊條例及鉱業呈文図表程式等ヲ送越セル上従前取得ノ鉱業權モ右鉱業註冊條例ニ依リ該條例施行ノ日(本年五月三日)ヨリ六個月内ニ登記ヲ為スヘク且鉱業條例ニ拠リ更メテ鉱山採掘ニ関スル願書並附図ヲ同署ニ提出スヘク同署長ニ於テハ調査ノ上鉱税登記料其他ノ公費ヲ裁定徴収スヘク若シ右期間内ニ前頭手續ヲ為サ、ルトキハ右鉱業權ヲ取消スヘキ旨本月十七日附ヲ以テ照会越候

本件ニ関シテハ特ニ既得鉱業權ヲ取消スカ如キ事実問題発

七 中国鉱業条例ニ関スル件 二三八

ナリト答ヘタリ右周トノ談話ハ極メテ咄嗟ノ間ニ成リシカ故ニ十分突止ムル能ハス尚出来得ル丈正確ナル事実ノ探査ニ努ムヘキモ不取敢電報ス

二三五 六月十七日

在奉天落合總領事ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

中国鉱業條例規定ノ証明書ニ関シ問合ノ件

第一一〇号

在支公使四月二十七日機密第一七六号報告ノ如キ証明方式ハ差支ナシト御認アル次第ナリヤ差懸リタル事件アルニ付御電訓アリタシ

註 前掲二三〇文書

二三六 六月十八日

加藤外務大臣ヨリ
在奉天落合總領事宛(電報)

中国鉱業條例規定ノ証明書ニ関シ回訓ノ件

第一〇一号

貴電第一一〇号ニ関シ機密第一七六号トハ順濟公司契約証明ノ件ト思料セラルル処右方式ニテ差支ナシ

二三七 六月十八日

在安東吉田領事ヨリ
加藤外務大臣宛

生ノ場合ニ於テ相当処理致候事ニ致シ其迄ハ暫ク打棄置可然ト存居候処右取扱振ニ付テハ他館ノ振合モ可有之本省ニ於テ格別ノ御意見モ有之候得者御回訓相成候様致度此段及稟申候 敬具

追テ鉱業條例、鉱業註冊條例等ハ他館ヨリ送附済カト存シ茲ニ省略致候得共御回示ニ依リ写送付可致候

二三八 六月二十七日

在齊々哈爾吉原領事館事務代理ヨリ
加藤外務大臣宛

中国鉱業條例及鉱業登録條例ノ制定及施行ニ
関スル第二区鉱務監督署來翰写並訳文送付ノ

件

附屬書一

中華民國三年六月十日附第二区(奉・吉・黑)

鉱務監督署公文第九号写

二 六月十七日附同右第十五号写

三 六月十九日附同右第十七号写

公信第七五号

(七月六日接受)

大正三年六月二十七日

在齊々哈爾

領事館事務代理 吉 原 大 蔵(印)

三九七

外務大臣男爵 加藤高明殿

在長春第二區^{黑吉奉} 鈹務監督署ヨリ鈹業条例、鈹業条例施行細則、鈹業註冊条例及鈹業呈文圖表程式各件通ヲ添附シテ別紙ノ通り公文照会有之候尤モ当館管内ニテハ本邦人ノ關係アル鈹業無之候ヘ共為御参考此段及報告候

追テ鈹業条例、同施行細則、鈹業註冊条例及呈文圖表程式ハ已ニ御知悉ノ事ト被察候条添附省略致置候
別紙添附

第二區鈹務監督署来函

鈹字第九号原文写及訳文

第二區鈹務監督署来函

鈹字第十五号原文写及訳文

第二區鈹務監督署来函

鈹字第十七号原文写及訳文

本信写送附先北京小幡代理公使

(附屬書一)

第二區^{黑吉奉} 鈹務監督署公函

三年 鈹字第九號寫

逕啓者敝署業經成立所有本管區域以內未辦各礦亟應設法

提倡冀濬利源其從前已辦各礦暨各處零星小礦亦應飭各該礦商遵照

教令第三十六號公布礦業條例第四十一號公布礦業條例施行細則第五十六號公布礦業註冊條例暨礦業呈文圖表程式切實奉行迅即來署呈請註冊惟是敝署管轄區域既廣特恐各該礦商等未及週知除將部頒各種條例細則暨呈文圖表程式各檢一份令發三省各縣知事轉飭遵照外相應檢同各種條例細則暨呈文圖表程式各一份函請

貴領事查照是荷此致

日本國駐黑龍江省領事

礦業條例

計附 礦業條例施行細則

各一份 礦業註冊條例

礦業呈文圖表程式

中華民國三年六月初十日

監印 陳繼虞

校對 黃自強

(右和訳文)

第二區鈹務監督署来函鈹字第九号

六月十日附

以書翰致啓上候陳者敝署既ニ成立シタレバ管轄区域内ニ於ケル未着手ノ各鈹ハ速ニ方法ヲ講シテ着手セシメ以テ利源ノ開發ヲ奨励スルト共ニ從來着手セル各鈹及各地ノ小鈹ハ各該鈹商ヲシテ大總統教令第三十六号公布ノ鈹業条例及同第四十一号公布ノ鈹業条例施行細則並ニ同第五十六号公布ノ鈹業登記条例及同願出表式ニ遵ヒ敝監督署ニ願出ノ上登記セシムルコトナレリ
然レトモ敝署ノ管轄区域広大ニシテ各該鈹商等ノ普ク知悉セザルヘキヲ慮リ公布セラレタル各種条例細則及表式各一通ヲ東三省各県知事ニ送致シテ鈹商ニ転飭セシムル外同上各種条例細則及表式各一通ヲ貴領事宛送附致置候条右御了承相成度此段得貴意候 敬具
添附 鈹業条例

鈹業条例施行細則

鈹業登記条例

鈹業願出表式

(附屬書二)

第二區^{黑吉奉} 鈹務監督署公函

三年 鈹字第十五號寫

逕啓者查礦業條例暨礦業註冊條例業奉

大總統先後公布施行在案所有從前已經領照之礦無論官辦商辦或中外合辦均應由礦業權者或代表人遵照此次新頒礦業註冊條例第四十九條規定自本條例施行之日起六個月以內依本條例註冊並按照礦業條例第二十五第二十八各條備具呈文並附圖說呈由本署長分別查核辦理至隨文應繳公費及註冊費均應照繳如逾限不遵定將從前取得之礦業權即行註銷除分函暨令行外相應函請
貴領事查照是荷此致
日本國駐黑龍江領事
中華民國三年六月十七日

監印 陳繼虞

校對 黃自強

(右和訳文)

第二區鈹務監督署来函鈹字第十五号

六月十七日附

以書翰致啓上候陳者鈹業条例及鈹業登記条例ハ既ニ大總統

ヨリ夫レ夫レ公布施行セラレ候ニ付從來鑑札ヲ領有セル鉱山ハ其官辦タルト商辦タルト或ハ中外合辦タルトヲ問ハズ鉱業権者或ハ代表人ヨリ今回發布ノ鉱業登記條例第四十九条ノ規定ニ因リ本條例施行ノ日ヨリ六個月間以内ニ登録シ並ニ鉱業條例第二十五同第二十八ノ各条ニヨリ図説ヲ附シテ願書ヲ呈出シ本署長ノ検査ヲ受クベク願書呈出ト共ニ公費及登録費ヲ納附スベシ若シ期限後尙遵奉セサルモノアレバ從來所有セル鉱業権ヲ取消スモノトス依テ各地ニ分別通告シテ執行セシムル外右貴領事ノ了承ヲ得度此段得貴意候

敬具

(附屬書三)

第二區^{吉奉} 礦務監督署公函

黑

三年鑛字第十七號寫

逕啓者案奉

農商部訓令第二百二十五號内開查鑛業條例業於本年三月十一日奉

大總統公布施行在案所有從前現行之鑛務正附章程當然失其效力惟柴煤小鑛前清訂有變通辦法頒作鑛務附章奉行已久與現在施行之鑛業條例第十六條所載煤鑛鑛區以二百七十畝以上十方里以下爲限辦法不能相容今經本部擬定辦法凡

商民已領柴煤小鑛憑照者自鑛業條例頒布之日起限一年內准其自行擴充鑛區或與相聯屬之鑛協商合辦其最小之鑛區亦須展至二百七十畝之數領照辦法並照條例第二十八條辦理應繳各費亦依註冊條例分別照繳如逾期抗不遵照當即查明封禁其未經領有憑照者自今以後不得再行發給以符定例而歸統一除將鑛業條例附發外合即令行該署長轉飭遵照可也此令等因計附鑛業條例二冊奉此除鑛業條例已另函達外相應函請

貴領事查照是荷此致

日本駐黑龍江省領事

中華民國三年六月十玖日

監印 陳繼虞

校對 黃自強

(右和訳文)

第二區鉱務監督署來函鉱字第十七号

六月十九日附

以書翰致啓上候陳者農商部訓令第二百二十五号ニ依ルニ鉱業條例ハ本年三月十一日附ヲ以テ大總統ヨリ公布施行セラレタルニ付從來施行シ來レル鉱務正附章程ハ当然其効力

会ノ件ニ付中国政府へ警告方訓令ノ件

政機密送第二一一号

本件ニ関シ別紙写ノ通り在安東吉田領事ヨリ申越ノ次第有之候処御承知ノ通り新鉱業條例ニハ不穩当ナル規定アルヲ認メ曩ニ貴地外交団ヨリ支那政府ニ対シ抗議ヲ提出シタル次第ニテ未タ各国ニ於テ之ヲ承認スルニ至ラサル義ニ付今回第二區鉱務監督署ヨリ吉田領事へ照會シタル事項ノ如キ固ヨリ之ヲ承認スヘキ限リニ無之從テ其儘打棄置クモ差支ナキ義ニハ有之候得共從來ノ成行ニ顧ミ此際貴地外交団ヨリ現ニ其ノ抗議ニ係ル新條例ヲ外國人ニ強制セントスルカ如キハ不都合ニ付斯ル事ナキ様當該官憲ニ訓令方支那政府ニ警告ヲ与ヘ置クコト可然ト被存候条適當ノ機會ヲ以テ外交団ニ提議セラレ其ノ実行ヲ見ル様御配慮相成度若シ万一外交団ノ同意ヲ得ルニ至ラサルトキハ貴官単独ニテ支那當局ニ対シ前記ノ趣旨ニ依リ交渉ノ上其結果御回報相成度此段申進候也

本信写送付先 在安東領事

別紙 六月十八日機密第三七号吉田領事來信写

註 別紙前掲ニ付省略ス尚在安東吉田領事へハ七月七日政機密

ヲ失フ事ト相成候惟ダ石炭小鉱ハ前清時代ニ變通ノ辦法ヲ訂シ鉱務附章トシテ發布セラレ施行久シキニ涉リシガ現在施行ノ鉱業條例第十六条所載ノ石炭鉱區ハ二百七十畝以上十方里以下ヲ以テ制限トスル辦法ト相容ル、コト能ハズ因テ本部ハ下ノ如ク其辦法ヲ定メタリ凡ソ商民ノ石炭小鉱採掘鑑札ヲ有スル者ハ鉱業條例發布ノ日ヨリ一個年ノ期限内ニ自ラ鉱區ヲ擴張シ或ハ隣接セル鉱區ト共同合辦シテ二百七十畝ニ達シ鑑札ノ下附ヲ請ヒ同條例第二十八条ニ依リテ辦理シ且ツ費用ハ登記條例ニ依リテ納附スベシ若シ期限ヲ經過シテ遵奉セサルモノアレバ該鉱ヲ封禁ス其未タ鑑札ヲ領有セサルモノニ対シテハ今後再ヒ發給スルコトヲ得ス以テ定例ニ符合セシムルト共ニ統一ニ帰セシム依テ鉱業條例ヲ添ヘ該署長ニ令シテ各地ニ轉飭遵行セシム鉱業條例二冊添附

以上ノ訓令ニ因リ鉱業條例ハ既ニ御送附致置候ニ付右事情貴領事ニ於テ御了承相成度此段得貴意候 敬具

二三九 七月七日

加藤外務大臣ヨリ
在中国小幡臨時代理公使宛

新鉱業條例ニ依ル鉱業権登録方中国側ヨリ照

送第四七号ヲ以テ本件小幡代理公使宛公信ノ写ヲ送付セリ

二四〇 七月二十四日 在中国小幡臨時代理公使ヨリ
加藤外務大臣宛

中国新鉱業條例ニ関シ外交団ノ抗議ニ対スル

中国側回答ヲ送附ノ件

附屬書 七月八日附孫外交總長ヨリ外交団首席英國公使

宛書翰写及英訳文写

機密第三〇五号 (七月三十一日接受)

大正三年七月二十四日

在支那

臨時代理公使 小幡 西 吉(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

本年五月一日附機密第一八七号ヲ以テ及御送付置候新鉱業
條例ニ対スル外交団ノ抗議案ハ当時申進ノ如ク各国公使ニ
於テ同意ノ結果五月四日外交部ニ提出セラレ候本件ニ関シ
テハ本月七日附政機密送第二一一号ヲ以テ御訓示ノ次第モ
有之候処本月八日外交部ヨリ右抗議ニ対スル回答有之タル
趣ヲ以テ今般首席公使ヨリ回章ヲ以テ各国公使ノ査閲ニ供
セラレ候条今回ノ回章ニハ首席公使ニ於テ何等意見ヲ附記

(附屬書)

七月八日附孫外交總長ヨリ外交団首席英國公

使宛書翰寫

三年商字一六七號

外交 總 長 孫

爲

照會事接准

照會以鑛業條例有視為缺點之處逐述各節須稍行更改等因
當經函達農商部去後茲准復稱查來文所稱取消鑛業權一條
有鑛業有害公益及不照施工計畫施行兩項過於籠統苛虐一
節查有害公益四字係指妨害公衆利益而言如有害公衆衛生
及地方安寧之類考之各國鑛章均有此種條文至是否有害公
益行政官自應為適當之認定其不照施行計畫施工一項係為
維持鑛業起見如果因天災事變有必須變更計畫之時則鑛業
權者自可根據施行細則第五十六條呈請更正行政方面斷無
置鑛權者之資本於不顧而貿然取消之理至九十三條所載謂
與現行條約歸本國官裁判之權不合應須更改一節查裁決之
意義係屬一種行政處分且以關於鑛務之爭執為限與一般司
法裁判不同揆之現行條約並無抵觸又所稱股分不得逾十分
之五與華英商約所許中國鑛章比較諸國通行章程與外洋資

シ居ラス候へ共追テ外交団會議ニ附シテ之ニ対スル外交団
ノ意見ヲ決定スル運ニ至ル事ト被存候ニ付右回答原文並英
訳文写不取敢及御送付候右支那側回答ニ依レハ(一)同條例第
四十六條鑛業權取消ノ規定ニ関スル抗議ニ対シテハ斯クノ
如キ規定ハ諸國法制ノ一般ニ認ムル所ニシテ過酷ト云フ可
カラス又当局官吏ニ於テ投下セラレタル資本ヲ考量スル所
ナク鑛業權ヲ取消スカ如キコトハ決シテ之ナカルヘシト云
ヒ(二)第九十三條ヲ以テ領事裁判權ニ抵触ストナス外交団ノ
抗議ニ対シテハ「裁決」トハ行政官庁ノ行為ニ過キス且鑛
業上ノ事件ニ限ラル、モノナルカ故ニ領事裁判權トハ別事
ニ属シ何等現行條約ニ違反スル所ナキモノナリト為シ(三)第
四條外人ノ所有株數ヲ全株數ノ半數以下ニ限ルヲ一九〇三
年英支條約ノ違反トナス抗議ニ対シテハ旧鑛業條例(明治
四十四年四月十五日附機密第三三三号添付鑛務章程正章第七
十四款参照)ニ既ニ同様ノ規定アリ且新條例ハ旧條例ニ存
シタル土地所有者ノ持株ニ関スル制限ヲ廢止シタルヲ以テ
却テ外人ニ有利トナリタルモノナリト弁解致居候尚詳細ハ
別紙添付回答写ニ就テ御閱悉相成候様致度此段申進候也

本信写送附先在奉天總領事

財不得有虧之語自相矛盾等語查前清鑛務章程所訂中外合
股辦法亦係華洋各半且有地股限制此次鑛業條例所定與前
例相同而地股限制並已撤消是對於外國鑛商較之舊章已屬
優待況股本十分之五中外平均若外人投資則利害皆可分任
更無資財有虧之理等因請查照轉復前來查農商部既將鑛業
條例內經

貴領銜公使聲明各節逐條解釋詳晰當不致再有誤會相應照
會

貴領銜公使查照轉達

各國公使為荷須至照會者

右 照 會

大英國領銜欽命駐華全權公使朱

中華民國三年七月八日

(右英訳文)

TRANSLATION.

From Wai Chiao Pu to Dean.

8th July, 1914.

Sir,

I have the honour to acknowledge the receipt of
Your Excellency's Note of the 4th May stating that

the Mining Enterprise Regulations must be considered inadequate in certain respects. You give particulars as to these, and state that the Regulations should be modified in accordance with your suggestions.

I wrote to the Ministry of Agriculture and Commerce in the matter and have now received the following reply:—

“It is observed, with reference to the statement in the Dean’s Note that the cancellation of a mining right on the two grounds that the mining enterprise injures the public interest and that the plans and descriptions given are not followed is too indefinite and would be an excessive penalty, that the words “injures the public interest” refer to an injury to the interest of the whole community, such as injury to public health or to the peace of the locality where the mine is situated. Investigation of the Mining Laws of every country shows that such a provision is universal. Regarding the question whether or not a mining enterprise injures the public interest, the administrative officials should lay down a proper fixed principle. The provision as to not following the plans and descriptions given is inserted with a view to the assistance of

mining enterprise. If owing to some natural calamity the necessity for a modification of the plans arises, it is of course permissible for those who hold the mining right to request a modification of the plans on the basis of Article 56 of the Detailed Regulations. The Administrative officials will have absolutely no right to blindly cancel a mining right without consideration of the capital invested in it.

“As regards the statement that Article 93 contravenes the rights of extra-territorial jurisdiction enjoyed under existing Treaties and should therefore be modified, it is observed that the meaning of the word “settlement” in that Article is an act of administrative government, and, being limited to disputes in mining affairs, is different to an exercise of legal jurisdiction. Looking at the matter in the view of existing Treaties, there is nothing not consonant therewith.

“Turning to the statement that the provision that foreign subjects are not to hold more than one half of the total number of shares of the mining concern is not consonant with the promise contained in the Treaty of 1903 between China and Great Britain to the effect that foreign capitalists shall not be placed at a greater

arise. I have the honor to request you to transmit this reply to your Honourable Colleagues.

I avail etc.

(Seal of the Wai Chiao Pu)

二四一 七月二十七日

在中国小幡臨時代理公使ヨリ
加藤外務大臣宛

中国新鉱業條例ニ関シ米國代理公使单独ニ中

国政府へ抗議申入ノ件

附屬書

在中国米國代理公使ヨリ外交総長宛抗議書写

機密第三一七号

(八月三日接受)

大正三年七月二十七日

在支那

臨時代理公使

小幡

西吉(印)

外務大臣男爵

加藤高明殿

本件ニ関シテ本年五月一日附機密第一八七号竝本月二十

四日附機密第三〇五号ヲ以テ報告申進ノ次第有之候処米國

代理公使ニ於テハ本国政府ノ訓令ニ依リ曩ニ外交団ヨリ提

出シタル抗議ヲ以テ足レリトセス罰則ヲ規定スル第九十四

条乃至第百〇五条モ亦領事裁判權ニ抵触スルモノニシテ外

disadvantage”.

The Ministry requests me to reply in this sense to Your Excellency. In view of the above detailed explanation by the Ministry of Agriculture and Commerce of the various points in the Mining Enterprise Regulations raised by you, no further misunderstanding should

ハニ対スル除外例ノ規定ヲ設クルコトヲ要スヘク又第八十六条及第八十七条ハ鉱業家ニ対シ有害ナル規定ナリト為シ本月二十三日附ヲ以テ单独ニ外交部ニ抗議ヲ申出テ之カ写ヲ首席公使ニ送附シ来リタル趣ヲ以テ今般首席公使ヨリ回章ニテ之ヲ各国公使ノ閲覧ニ付シ且本件ニ関シテハ外交団會議ヲ開キ外交部ノ回答ニ対スル外交団ノ回答ヲ作成セムコトヲ提議シ来リ候条右米國代理公使ヨリ外交総長宛抗議書ヲ差進候間詳細ヘ之ニテ御承知相成候様致度此段申進候也

追テ本官米國代理公使ヲ往訪ノ節同代理公使ノ語ル所ニ依レハ右抗議ニハ本月八日附外交部ノ回答ヲ引用セルモ実ハ曩ニ五月四日附外交団ノ抗議ヲ報告セルニ対シ接受シタル訓令ニ基キ為シタルモノニシテ未タ今回ノ外交部ノ回答ニ対スル訓令ヲ得テ為シタルモノニハ無之由ニ候間右御含迄申添候也

(附屬書)

在中國米國代理公使ヨリ外交総長宛抗議書ヲ

Peking,
July 23, 1914.

a provision for the exception of foreigners from the local jurisdiction with respect to the punishments in question and setting forth that they should be dealt with by their own courts.

It further appears to my Government that Articles 86 and 87 of the Regulations might well operate prejudicially and unfairly as against persons engaged in mining enterprise; and I am therefore instructed to bring to Your Excellency's attention its view that warrant exists for a protest against the features of the Regulations which seem to be unduly "restrictive" as well as against the provisions in subversion of the extra-territorial rights of the United States.

I avail myself of this opportunity to renew to Your Excellency the assurance of my highest Consideration.

J.V.A. MacMurray.
American Chargé d'Affaires.

His Excellency
Sun Pao Ki,
Minister for Foreign Affairs.

Excellency:

With reference to the Note, dated May 4th, in which the Dean communicated to Your Excellency the objections of the Diplomatic Body to the Mining Enterprise Regulations, published by the Chinese Government on March 11th last; also to Your Excellency's reply thereto, under date of July 8th, addressed to the Dean of the Diplomatic Body, quoting a communication of the Minister of Agriculture and Commerce, in explanation of certain points of the Regulations: I have the honour to inform Your Excellency that my Government instructs me to bring to your attention its view that, no less than Article 93 of the Regulations, to which exception has already been taken by the Diplomatic Body, Article 94-105 (relative to the punishments for violations of the Mining Regulations) are objectionable in that they appear to apply to all persons, as there seems to be no provision in the Regulations excepting foreigners from the local jurisdiction. Under the Regulations as they stand it would seem that China might plausibly claim the right to inflict the punishments in question upon American citizens. It would appear, therefore, that the Regulations should contain

二四二 七月二十八日 在奉天落合總領事ヨリ
加藤外務大臣宛

中国新鉱業条例中実行困難ナル個条ニ付小幡
臨時代理公使宛意見具申ノ件

附屬書 七月二十八日附在奉天落合總領事ヨリ在中國小
幡臨時代理公使宛機密北第一一七号ヲ
同右件

機密公第一四三号 (八月三日接受)
大正三年七月二十八日 在奉天
總領事 落合謙太郎(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿
大正三年七月二十八日附機密北第一一七号小幡臨時代理公
使宛往信ヲ送附
支那鉱業条例ニ関スル件

(附屬書)

写

機密北第一一七号
大正三年七月二十八日

在奉天

総領事 落合 謙太郎

在支那

臨時代理公使 小幡西吉殿

支那鉱業条例ニ関スル件

先般支那政府ニ於テ制定発布シタル鉱業条例ニ対シ貴地外交団ヨリ抗議シ外交部ヨリ一応回答有之タル義ニ関シ本月二十四日附機密第三三号ヲ以テ御通報ノ趣致聞悉候右外交団ノ抗議中鉱業条例第四十六条ニ関シ呈請シタル施工計画ニ照ラシ施工セサル場合鉱業権ヲ取消スト云フカ如キハ投資ニ対スル保障充分ナラストノ理由ヲ以テ其他抗議ノ諸点ト共ニ右条項訂正スルニ非レハ承認シ難キ旨ノ記載有之候処之ニ関聯シテ当地方今日迄ノ経験ニヨレハ鉱業権出願ノ際ニ鉱務監督署其他当該官憲ヨリ提出ヲ必要トセル書類等ニ煩雜ニ過キ又ハ實際ニ実行ヲ困難トスルカ如キ事項有之現ニ試掘出願ノ際添付スヘキ地図ニ関シテモ同条例施行細則ニヨリ表程式中ニ規定シアルモノ即五千分ノ一以上ニシテ極メテ詳密ナル地図提出方ヲ求メ居リ候処右ノ如キ地図

ヲ作製スルハ単ニ試掘ノ目的ニ於テハ当該出願者ニ取リテハ煩雜甚シク果シテ採掘権ヲ出願スルヤ否ヤ又出願スルトモ必ス許可セラルルヤ否ヤ確乎タラサルモノニ対シスル費用ヲ投スルハ当事者ノ迷惑ナルノミナラス場合ニヨリ実行甚困難ナルモノ有之候次第ニ付此際出来得ヘクハ前記ノ如キ場合ニハ大略見取図ヲ以テ足レリトスルカ如キ途ニ出ツル便法ヲ設ケシムルヲ得ハ好都合ナランカト思考致候 右御参考旁々申進候 敬具

本信写送附先 外務大臣

二四三 八月三日

加藤外務大臣ヨリ
在中国小幡臨時代理公使宛

中国鉱業法規集送附ノ件

附屬書一

鉱務監督署官制及同説明書

二 鉱務監督署分区規則及同説明書

政送第一七〇号

今回本省ニ於テ鉱業ニ関スル支那ノ諸法規ヲ彙集譚訳ノ上印刷致候ニ付右一部及御送付候間御査収相成度此段申進候也

支那鉱業法規（大正三年七月印刷、外務省政務局）

目次

一 鉱務監督署官制

同 説明書

一 鉱務監督署分区規則

同 説明書

一 鉱業条例

一 鉱業条例施行細則

一 鉱業登録条例

一 鉱業登録条例施行細則

註 右目次中鉱業条例以下ヲ省略ス尚鉱業条例及其施行細則ハ

前掲

（附屬書一）

○鉱務監督署官制（中華民國三年二月一日附）
（教令第十七号同日公布）

第一条 鉱務監督署ハ農商部鉱政局ニ隸屬シ所轄区内一切

ノ鉱務ヲ掌理ス

第二条 鉱務監督署ノ名称、位置及其ノ管轄区域ハ別ニ部

令ヲ以テ之ヲ定ム

第三条 鉱務監督署ニ左ノ二科ヲ分設ス

七 中国鉱業条例ニ関スル件 二四三

一 鉱政科

二 鉱業科

第四条 鉱務監督署ニ左ノ職員ヲ置ク

署長 僉事 技正 主事 技士

第五条 署長ハ一人トシ農商總長ノ命ヲ承ケ鉱政局ノ指揮

監督ヲ受ケテ署務ヲ總理シ所屬ノ職員ヲ監督ス

第六条 僉事ハ一人トシ署長ノ命ヲ承ケ鉱政科ノ事務ヲ分

掌ス

第七条 技正ハ每署一人乃至四人トシ署長ノ命ヲ承ケ鉱業

科ノ事務ヲ分掌ス

第八条 主事ハ每署一人乃至四人トシ長官ノ命ヲ承ケ鉱政

科ノ事務ヲ分理ス

第九条 技士ハ每署二人乃至八人トシ長官ノ命ヲ承ケ鉱業

科ノ事務ヲ分理ス

第十条 鉱政科ハ左ノ事務ヲ掌ル

一 鉱業監督ニ関スル事項

二 鉱業ノ提唱奨励ニ関スル事項

三 鉱業権ノ特許及取消ニ関スル事項

四 鉱業税徴収ニ関スル事項

七 中国鉱業条例ニ関スル件 二四三

五 鉱業ノ訴願及訴訟ニ関スル事項

六 其ノ他ノ鉱務行政一切ニ関スル事項

第十一条 鉱業科ハ左ノ事務ヲ掌ル

一 鉱区測定ニ関スル事項

二 鉱業調査ニ関スル事項

三 地質鉱床ノ調査ニ関スル事項

四 鉱業警察ニ関スル事項

五 鉱物分析ニ関スル事項

六 其ノ他鉱業一切ニ関スル事項

第十二条 鉱務監督署職員ノ定員ハ各該署ノ事務ノ繁簡ヲ

視テ別ニ部令ヲ以テ之ヲ定ム

第十三条 鉱務監督署ハ公文ノ書写及其ノ他ノ特別事項ノ

為ニ雇員ヲ酌用スルコトヲ得

第十四条 本官制ハ公布ノ日ヨリ施行ス

○ 國務總理熊希齡農商總長張謇ヨリ大總統ニ提

出シタル鉱務監督署官制説明書

実業行政中ニ於テ鉱務ハ特ニ重要ノ位置ヲ占メ完全ノ法令
アルニアラサレハ事業ノ保障ニ資スルニ足ラス監督ノ機関
アルニアラサレハ法令ヲ行使スルニ由ナシ査スルニ鉱業条

遭遇セリ故ニ宜シク専門官署ヲ設立シ時々吏員ヲ派シ
テ督查セシメ未開ノ鉱山ニハ之カ測量計画ヲナシ既開
ノ鉱山ニハ之カ工事ノ指導ヲナサシメンカ庶幾クハ斯
業ノ振興發展ニ資シ又資財ヲ浪費スルニ至ルコト無キ
ヲ得ン

一、治安上ノ關係 鉱山警察ハ本ト禍災防衛治安保護
ノ為ニ設ケラレ而シテ此ノ種ノ職務ハ普通警察ノ能ク
任ニ勝フル所ニ非ス鑿井、隧道、排水、通風等ノ如キ
モ或ハ鉱業家ノ利益ヲ図ルニ專ナルタメ災害職工ニ及
フヲ顧ル無キカ如キアリ或ハ施設ノ注意十分ナラサル
カ故ニ害ヲ居民ニ及ホスカ如キアリ且鉱業ハ日ニ盛ニ
シテ工事益々大トナリ煙毒ハ燦灼シ惡水ハ奔流シ変災
層出スルハ勢ノ必ス至ル所ナリ故ニ宜シク鉱務署ヨリ
専門ノ警察ヲ組織シテ巡察ニ従セシムヘキナリ然ル
トキハ事ニ先シテ予防シ時ニ応シテ補救スルコトヲ得
ヘシ

一、財政上ノ關係 鉱業税ハ国家ノ正当收入ナリ日本
ノ如キハ歳ニ千万円ヲ超エ我国ハ税率比較的重ク地域
甚タ広キニモ係ラス而カモ毎年ノ徵收額ハ猶百万ヲ過

四一〇

例ハ本總長部員ヲ督率シ草案ヲ擬定シ國務會議ニ提出シ其
ノ議決ヲ俟チテ熊希齡ト会同呈出スヘキモ茲ニ鉱務監督署
官制ヲ起草シ中央鉱政局以外ニ於テ鉱務監督署ヲ各省ニ設
置セントス其ノ理由左ノ如シ

一、行政上ノ關係 各省ノ鉱務ハ現今実業司ニ隸セリ
然レトモ実業司ノ範圍ハ太タ広ケレハ未タ兼籌ニ暇ア
ラス且權限專ラナラサレハ事独斷シ難シ故ニ凡テノ案
件ハ僅カニ地方官ノ文告ニ拠リテ中央ニ轉達セラレ中
央政府モ亦周到ナリ難キヲ以テ偶々疑難紛糾アルモ直
接踏査スル能ハス往復調査時日遷延シ坐シテ弊害ノ叢
生スルヲ見ルノミ安ソ鉱業ノ發達ヲ望ムヘケンヤ若シ
各省ニ於テ専門官署ヲ設立センカ文書ノ処理遅延ニ至
ラス実地ノ調査モ亦周密ナルヲ得ヘシ前清ノ末葉ニ於
テハ鉱務發達セル各省ハ多ク鉱政調査局ノ設ケアリ蓋
シ勸業道ノ管理宜シカラサルニ鑑ミテ之ヲ行ヘルナリ

一、技術上ノ關係 凡ソ鉱脈ノ探採、鉱区ノ糾正、鉱
床ノ測量、鉱質ノ化学的試験等ハ専門ノ士ニヨリ極力
經營シ始メテ完全ノ域ニ至リ得ヘキナリ然ルニ我國ノ
鉱業家ハ多ク學識ナク漫然事ニ従フカ故ニ屢々失敗ニ

キス其ノ原因ヲ究ムルニ鉱業ノ未タ興ラサルニ因ルト
雖抑々実ハ徵收ノ不確實ナルニヨル蓋シ奸商ノ射利詐
偽風ヲナシ鉱区ニ対スル報告ハ毎ニ広ヲ以テ狹ト偽リ
鉱物ニ対スル報告ハ多ヲ以テ少トナス故ニ若シ専門官
署アリテ嚴重ニ監督調査ヲ行ハンカ鉱業者モ敢テ詐欺
隱匿スルコトナク随テ國課ノ増加ヲ見ル可キナリ

上述ノ數節ニ就テ詳カニ推究ヲナサハ鉱務機關ノ設置ハ即
チ鉱業發達ノ枢機ナリ今日救亡ノ要策ハ經費支出ニ対シテ
ハ固ヨリ当ニ量テ縮減ヲナスヘキモ然カモ生産事業ニ対シ
テハ則チ宜シク積極進行ヲ計ルヘキナリ鉱務ニ関スル専門
ノ官署ハモト行政機關ニ屬スト雖間接ノ効果ハ実ニ生産機
能ヲ具備セリ本部ハ全局ヲ統籌シ敢テ徒ニ擴張ヲ事トシ國
民ノ負擔ヲ増スノ累ヲナスヲ欲セス又噫ニ因リ食ヲ廢シ國
家遠大ノ図ヲ忘ル、ヲ願ハス以テ特ニ先ツ二十二行省ニ就
キ若干区ヲ分劃シ第一區監督署ハ農商部ニ附設シ署長一人
ヲ置キ責任ヲ專ラニスルノ外余ハ部員ヲ兼任セシメ其ノ余
ハ數省ヲ集合シ共ニ一署ヲ置キ擴張ヲ力図スル中ニモ仍ホ
經費節減ノ意ヲ寓セシメントス該官制及區域劃分ニ関スル
説明書ハ本月十六日國務會議ニ於テ議決シタルニ付茲ニ之

ヲ附呈シ公布施行ヲ請フ云々

(附屬書二)

○鉱務監督署分区規則

(中華民國三年一月五日附農商部令第二十二号同月二十一日公布)

第一条 鉱務監督署ノ名称、位置及其ノ管轄区域ハ左ノ如シ

第一区 鉱務監督署ハ農商部鉱政局内ニ附設シ直隸(附熱河)、山東、山西、河南各省ノ鉱務ヲ管轄ス

第二区 鉱務監督署ハ長春ニ設ケ奉天、吉林、黑竜江各省ノ鉱務ヲ管轄ス

第三区 鉱務監督署ハ江寧(南京)ニ設ケ安徽、江蘇、浙江各省ノ鉱務ヲ管轄ス

第四区 鉱務監督署ハ漢口ニ設ケ湖北、湖南、江西各省ノ鉱務ヲ管轄ス

第五区 鉱務監督署ハ長安ニ設ケ陝西、甘肅、新疆各省ノ鉱務ヲ管轄ス

第六区 鉱務監督署ハ番禺(廣東)ニ設ケ廣東、廣西、福建各省ノ鉱務ヲ管轄ス

第七区 鉱務監督署ハ昆明(雲南)ニ設ケ雲南、貴州各省

究ヲ加ヘタルニ若シ全国ヲ以テ劃定セハ当ニ十区以上ヲ得ヘシ然レトモ茲ニハ實際ノ便益ヲ求ムル目的ヲ以テ先ツ中国本部ニ就キ八区ヲ劃定シ又特ニ政費ヲ節減スルノ目的ヲ以テ八区ノ中ニ於テ要ヲ択テ先ツ若干署ヲ設ケ余ハ鉱業稍盛ニ交通稍便ナルヲ俟チ漸ヲ逐フテ添設セントス今擬定ノ区域及官署設立ノ地点ヲ以テ分別説明スルコト左ノ如シ

第一区

直隸(附熱河)、山東、山西、河南 官署地点ハ北京農商部鉱政局ニ附設ス

説明 四省ノ区域甚大ニシテ鉱産極メテ富メリ民国設立以來本部ニ対シ採鉱ヲ出願スル者概ネ直隸河南兩省内ニ多ク而シテ京漢、津浦、京張、汴洛、正大諸鐵道皆此ノ四省ノ区域中ヲ貫通シ交通既ニ便ニシテ隨時皆踏査ス可ク且国内ノ巨鉱開鑿、嶧嶧等ノ鉱山皆中国鉱業ノ率先タリ速ニ署ヲ設ケテ監督シ以テ進行ヲ策ス可シ但タ經費節省ノ目的ヲ以テ署長一人ヲ設ケテ責任ヲ專ニスル外ハ別ニ官署ヲ設クルヲ要セス

第二区

奉天、吉林、黑竜江 官署地点 長春

ノ 鉱務ヲ管轄ス

第八区 鉱務監督署ハ成都ニ設ケ四川省ノ鉱務ヲ管轄ス

第二条 各区 鉱務監督署設置ノ順序ハ農商總長ヨリ該管区域内 鉱務ノ繁閑ニ応シ大總統ニ稟請シ之ヲ定ム

鉱務監督署未タ成立セサル以前ニ於ケル各該区ノ 鉱務ハ当分ノ内從來ノ行政官ヨリ本部ニ稟請ノ上処理スヘシ

第三条 蒙古、西藏、青海、察哈爾等ノ地方ハ当分 鉱務監督署ノ設置ヲ見合ハセ凡テノ 鉱務ハ當該行政官ヨリ農商部ニ照会スヘク同部ハ隨時官吏ヲ特派シ又ハ附近ノ 鉱務監督署ニ指令シ処理セシム

第四条 本規則ハ公布ノ日ヨリ施行ス

○國務總理熊希齡農商總長張謇ヨリ大總統ニ提

出シタル各省 鉱務監督署区域劃定説明書

鉱務監督署ノ設置ハ 鉱務監督ノ實行ヲ目的トスルヲ以テ其ノ管轄区域ハ尋常ノ行政区域ト全然同一ナルコト能ハス必ス 鉱業ノ盛衰交通ノ便否ヲ参考シ区域ヲ特定シ監督署ヲ適中ノ地ニ設ケ署員ノ足跡ヲ四通八達ニ里路ヲ均一ナラシメ或ハ吏員ヲ派シテ各処ニ分駐セシムル場合ニモ能ク相當ノ時日ヲ以テ本部ト通信スルヲ得セシムヘキナリ本部詳ニ研

説明 東三省 鉱産ハ金、炭、鉄ヲ主要ナルモノトシ就中金、鉄尤モ豊富ノ稱アリ其ノ最モ著名ナル漠河、庫瑪爾河、黑河、都魯河等ノ地ノ如キ皆吉林、黑竜江ノ間ニ在リ炭、鉄ハ撫順、本溪湖諸巨鉱悉ク奉天区内ニ在リ然レトモ炭、鉄ノ佳ナルモノハ既ニ日本人ノ手ニ歸ス故ニ將來三省 鉱業ノ希望ハ惟タ金、鉄ヲ發達セシムル一策ニ在リ而シテ金、鉄又多ク吉、黑二省内ニ在リテ長春ノ地ハ三省ノ中央ニ居リ吉長鐵道以テ吉林ニ通シ東清鐵道以テ黑竜江ニ通シ南滿洲及京奉鐵道以テ閩内及奉天各地ニ通スルアリ商業繁盛交通便利ナルヲ以テ官署ヲ此ニ設クレハ調査ニ便ニシテ又監督シ易シ故ニ官署地点ヲ此ニ設ケンコトヲ擬ス

第三区

安徽、江蘇、浙江 官署地点 江寧(南京)

説明 三省ノ 鉱産ハ南安徽ヲ以テ最トナシ江蘇、浙江省内亦頗ル多シ其ノ区域同シク揚子江下流ニ在リ又滬寧、杭甬及津浦等ノ鐵道其ノ中ヲ貫通シ三省ヲ合セテ一署ヲ設クルモ交通敏捷水陸ノ便アリテ適中ノ地ハ江寧ニ如クハナシ此ノ地ハ上安慶ニ達シ下蘇浙ニ通シ平日ノ監督ニ便ニシテ臨時ノ察勘亦便ナリ故ニ官署地点ハ此ニ設ケンコトヲ擬ス

ス

第四区

湖北、湖南、江西 官署地点 漢口

説明 此ノ区ノ鉱産ハ湖北大冶ノ鉄、江西萍郷ノ石炭ヲ以テ最著トナシ而シテ湖南鉱物ハ種類繁多ニシテ戊戌（明治三十一年）以来今ニ至ル迄採鉱數千処ニ下ラス其ノ豊富知ル可シ今鉱務監督署ヲ交通最便ノ漢口ニ設クルハ此ヨリシテ湖南江西ニ通シ独リ調査ノ經費ヲ節シ調査ノ時日ヲ省ク可キノミナラス而カモ該兩省ノ鉱務自ラ以テ監督ニ資シ而シテ徐ニ發展ヲ図ルニ足ラン

第五区

陝西、甘肅、新疆 官署地点 長安

説明 三省ノ区域広大山脈綿延鉱物ノ豊富ナルコト夙ニ中外人士ニ称道セラル惟タ西北ニ偏処シ交通阻隔実業興ラス佳鉱アルモ未タ開採セサルモノ多ク陝西石油及各処採掘ノ石炭坑ヲ除クノ外其ノ他ノ金属各鉱ハ人ノ知ルモノ無キニ近シ若シ専門ノ官署ヲ設ケ力メテ経営ヲナサハ将来鉱務ノ発達遠ク他区ニ駕スルニ難カラス設置ノ計画ニ至リテハ三省地域ノ遼闊ヲ以テ本ト一署ノ能ク兼轄ス

ル所ニアラス但タ此ノ鉱業幼稚ノ地方ニ於テ又財政困難ノ際ニ当リ省毎ニ一署ヲ設クルハ力未タ能ハサルアリ故ニ交通稍便ニ発達較ヤ早キノ長安ニ就キ先ツ一署ヲ設ケ暫ク兼轄ヲナシ他日ヲ俟ツテ徐ロニ擴張ヲ計ラントス

第六区

広東、広西、福建 官署地点 番禺（広東）

説明 此三省中ハ石炭鉱以外普通ノ各鉱モ亦極メテ豊富ナリ而シテ広東、広西兩省ハ尤モ錫ヲ産スルヲ以テ著ハル其ノ区域、広東広西ハ共ニ五嶺ノ南ニ位シ天然ノ形勢専門ノ官署ヲ設クルニ適ス福建ハ東隅ニ偏処シテ較ヤ遠キモ広東ト同シク沿海ニ属シ交通既ニ便ニ管轄難カラス故ニ此ノ財政困難ノ際ニ当テハ振作力図ノ中ニ經費節減ノ意ヲ寓セサル可ラス故ニ合シテ一署ヲ三省適中ノ番禺ニ設ケ東西ヲ管轄セント欲ス

第七区

雲南、貴州 官署地点 昆明（雲南）

説明 雲南貴州ハ鉱物ノ富饒ナルコトハ東三省ト相等シク従来ト雖雲南ノ銅産ハ中国ニ著名ナリシカ近時此ノ鉱山ハ雲南全省歳入ノ巨款タリ且雲南ノ人民ハ鉱業ノ智識

ニ對シ発達最モ早く近頃雲南鉄道開通ヨリ以後鉱業尤モ発達ヲ遂ケ且多ク對外ノ貿易ニ属シ実ニ民国西南ノ富源ナリ貴州ハ青谿銅仁ノ鉄、鉄砂、白馬洞ノ銀、如キ夙

ニ仏國人ノ垂涎スル所タリ惟タ交通ノ不便ナルト財政ノ困難ナルトニ限ラレ投資興業者尚寥々ニ属ス若シ雲南省城ニ於テ官署ヲ設立セハ該省ノ発達セル鉱業ニ對シテハ既ニ指揮監督ニ便ナルカ上貴州ノ未タ発達セサル鉱業ニ對シテモ亦調査誘導ニ便ナル可ク且雲南ヨリ北京ニ至ルハ十日ニ過キサルモ（雲南鉄道ニヨリ東京香港等ヲ經由スル行程ヲ言フ）貴州ヨリ入京スルニハ一箇月ヲ要スルニヨリ官署ヲ雲南ニ設クルハ中央トノ交通ニ對シ延滞ヲ致サ、ルナリ

第八区

四川 官署地点 成都

説明 蜀ハ天府ノ国ト称シ地大ニ物博ク西南第一ノ都会タリ金沙江ノ金、鈹、雅州ノ銅、鈹皆人ノ共ニ知ル所ナリ且西、藏、衛ニ連ナリ素ヨリ産金ノ地ト称セラル川漢鐵路既ニ成都ヲ以テ終点トナシ而シテ成都ヨリ川西鈹産富饒ノ区ヲ控制シ亦頗ル利便ナリ川東一帯ノ如キハ皆河流ノ地ニ係リ産スル所ノモノ僅少ナル石炭ニシテ遠ク川南川北

ノ富饒ニ及ハス故ニ官署ヲ成都ニ設ケハ凡ソ水陸ノ交通川辺ノ調査ヲ挙ケテ利ナラサルナキナリ

以上八区ハ二十二行省ニ就キテ斟定セルモノニ係リ此ノ外蒙古、西藏、青海、察哈爾等ノ地方ニシテ或ハ従来ノ治理内地ニ異リ或ハ交通梗塞踏査困難ナルノミナラス民国初メテ建チ未タ完全ニ統一スルコト能ハス官治ノ添設動モスレハ交渉ニ関ス故ニ別ニ専門ノ官署ヲ設ケサルコトトシ凡ソ鈹山ノ測量採掘ニ関スル事項ハ暫ク旧ニ照ラシテ辦理シ以テ時機ヲ待チ而シテ經費ヲ節スルコト、ス若シ各該地方ニシテ經營スヘキノ鈹山アルカ或ハ鈹業ヲ經營セントスルノ人アラハ隨時該管行政官ヨリ本部ニ照会シ本部ヨリ官吏ヲ特派シ或ハ附近ノ官署ニ指令シテ調査処辦セシムルコト、セハ別ニ不便ノコトナカルヘシ此レ蒙藏地方ニ對シ官署ヲ設ケサルノ理由ナリ又八区同時ニ建設セハ財力或ハ未タ及ハサルモノアルヲ以テ今先ツ第五、第六、第八ノ三区ハ当分設置ヲ延期スルコト、スヘキモ其ノ余ノ五区ハ延期スヘカラサルカ如シ其ノ当否ハ裁定ヲ俟テ施行スヘシ

註 右法規集ハ在支在滿各領事館長及分館長宛送付セラレタリ

二四四 九月十八日 在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛

中国新鉱業条例ニ関スル米国代理公使ノ抗議
ニ対シ外交部ヨリ回答ノ件

附屬書 八月十二日孫外交総長ヨリ在中国米国代理公使
宛返翰写
右回答

機密第四〇五号 (九月二十五日授受)

大正三年九月十八日

在支那

特命全權公使 日 置 益(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

新鉱業条例ニ対シ米国代理公使ヨリ外交部ニ抗議スル所アリタル次第ハ本年七月二十七日附機密第三一七号ヲ以テ及報告置候処右ニ対シ外交部ヨリ別紙写ノ通り同代理公使ニ回答有之タル趣ニテ今般首席公使ヨリ回章ヲ以テ之ヲ各国公使ノ回覧ニ附シ候

右外交部回答ノ要領ハ(一)鉱業条例第九十三条ニ規定スル裁決ナルモノハ既ニ本年七月八日附外交団宛回答(本年七月

二十四日附機密第三〇五号)ニ於テ弁明セル通り行政処分ノ範圍ニ属シ司法上ノ決定ニアラス加之同条例施行細則第七條第二項ニ依リ中外鉱業合資経営ノ代表者ハ支那人タルヲ以テ罰則ノ適用ヲ受クルモノハ支那人ニ限ラレ從テ何等領事裁判權ト抵触スル所ナカルヘシト駁シ(二)鉱業条例第八十六條ノ規定ハ本来小資本ノ経営者ノ為メニ設ケタルモノニシテ大規模ノ鉱業経営ニ使用スル教育経験アル技師ニ対シテハ当該官憲ニ於テ其ノ任免ニ干渉スルカ如キコトナカルヘシ又此等技術員ノ資格ニ関シテモ農商部ハ決シテ嚴重ナラサル可ク尚此種ノ事項ニ関シテハ鉱業警察規則ノ發布ヲ見ルニ至ルヘク右ニ依リ諸事明瞭トナルヘシト辯シ(三)又鉱業条例第八十七條ノ規定ハ今日文明国ニ於テ一般ニ存スル規定ニシテ斯カル場合ニ対シ責任者ヲ明ニシ置クコト必要ナリト論シ居候尚委細ハ別紙ニテ御承知相成候様致度此段及報告候也

(附屬書)

八月十二日孫外交総長ヨリ在中国米国代理公

使宛返翰写

From F.O. No. 207

A Formal Note from His Excellency Sun
Pao Ki, Minister for Foreign Affairs, to
J. Van A. MacMurray, Esquire, Chargé
d'Affaires.

(RPT.)

August 12, 1914.

Sir:

I have the honour to acknowledge the receipt of your Note (No. 191, July 23, 1914), in which you stated that you had received instructions from your Government, in which objections were raised to Articles 94 to 105 and to Articles 86 & 87 of the Mining Regulations.

Upon receipt of this Note this Ministry sent a communication to the Ministry of Agriculture and Commerce, requesting a reply, which has now been received as follows:

"The 'decision' referred to in Article 93 falls within the category of administrative settlements, and being limited to disputes in mining affairs, is distinct from a judicial decision. This has already been explained in a communication previously sent

(See Dipl. Circ. No. 142). Furthermore, in accordance with clause 1 of Article 7 of the Detailed Regulations for Mining Enterprises, the representative of a Chinese-foreign joint mining enterprise must be a Chinese. Therefore, in case there should be a dispute in mining affairs the punishment inflicted under Articles 93 to 105 would still be born by a citizen of the Republic of China, would in no way affect foreigners, and would certainly constitute no violation of the principle of extra-territoriality.

In regard to the provisions of Article 86, by which the employment and dismissal and the qualifications of the experts fall within the scope of the mine policing arrangements, the idea in drawing up this law was nothing less than to protect merchants engaged with limited capital in mining enterprises, who work for a small profit, and who employ men improperly, thereby causing loss to themselves and to others. Educated and experienced engineers employed by large mines would be treated with the utmost respect by the Ministry and by the various Supervision Offices,

who would not interfere with the arrangements for their employment and dismissal. This Ministry would not be very strict as regards the qualifications of experts of the kind referred to. The law regarding the policing of mines has now been drawn up. Problems of this sort are especially considered therein. The Experts and Advisers of this Ministry have gone over the law item, by item, as a precaution and not with the idea of framing excuses. After the law has been promulgated the matters in question will be clearly explained.

The provisions of Article 87 are the customary general provisions of all civilized countries, that is, when merchants are engaged in mining they must naturally assume the responsibility of guarding against danger. In case, however, within one year after the cancellation of the rights in a mining enterprise there should be no one succeeding thereto, and if at such a time unexpected dangers should occur, affecting injuriously either the life or property of the original owner, or the safety of the holders of neighboring mining rights, under such circumstances if the original holder of the mining

rights were not to take the responsibility, then upon the appearance of the danger who would be responsible?

But it is clearly stipulated in the Article in question that 'the provisions for precautions against danger shall continue to have force', thus, after the cancellation of the rights in a mining enterprise responsibility is confined to precautions against danger. Aside from this no other obligations will be incurred. Both Chinese and foreign mine owners will all keep the law equally and there will be no danger of discrimination."

It was requested that the above statement be transmitted to the American Legation.

I have the honour to state that as the Articles referred to in the Legation's Note have been clearly explained in order by the Ministry of Agriculture and Commerce, there should be no further misunderstanding on the points in question. I have the honour to request that you will be so good as to transmit the contents of this Note to your Government.

With compliments.

Seal of the Ministry of Foreign Affairs.

二四五 十月七日 在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛

中国鉱業條例施行細則第七条ニ関シ農商部訓

令発表ノ件

附屬書 十月二日附農商部飭第三百四十九号

右訓令

公第三二五号 (十月十五日接受)

大正三年十月七日

在支那

特命全權公使 日 置 益(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

支那鉱業條例施行細則第七条ノ規定ニ拠レハ支那人及外国人ノ合資経営ニ係ルモノハ先ヅ其契約草案ヲ鉱務監督署經由農商總長ニ提出シ其許可ヲ得タル後始メテ確定調印スルヲ許ス云々トアリ右条文ニハ單ニ合資経営(原文合股辦鉱)トアリテ其試掘(原文探鉱)ト採掘(採鑛)トノ区別明白ナラス而シテ一面鉱業條例第五十五条ノ規定ニ拠レハ試掘願ニ対シテハ必スシモ農商總長ノ許可ヲ得ルニ及ハス單ニ当該鉱務監督署限リニテ其許可ヲ与ヘ得ラル、如クニモ解

釈被致候処今回農商部ニテハ本月六日政府公報ヲ以テ別紙訳文ノ通り苟クモ支那人及外国人合辦ノ事業ナルトキハ其試掘タルト採掘タルトヲ問ハス今後ハ必ス先ヅ農商總長ノ許可ヲ要スヘキ旨特ニ其意義ヲ明確ニセル訓令ヲ発表致候右御參考迄別紙相添及報告候也

(附屬書)

農商部飭第三百四十九號 (註 十月六日政府公報切抜)

爲通飭事查鑛業條例施行細則第七條中華民國人民與外國人民合股辦鑛應先將合同草案呈由鑛務監督署長轉呈農商總長核准方可簽訂等語細釋文意可推得之要點有三一中外合股辦鑛須俟合同簽訂後方有合辦之資格二無合辦之資格者即無取得鑛業權之權三無論探鑛採鑛其合辦合同必須經由鑛務監督署轉詳農商總長核准方能簽訂是各監督署長依鑛業條例第二十五條之規定雖有核准探鑛之權並無核准中外合請探鑛之權茲爲預防誤會起見特行明白解釋各該監督署長遇有中外合股稟請探鑛之案均應先將合同送部候核不得逕予註冊給照以昭慎重仰即遵照毋違此飭

農商總長 張 謇

右飭第三區礦務監督署長准此
二一
七四

部印

中華民國三年十月二日

(右和訳文)

農商部飭第三百四十九号

鉱業條例施行細則第七条ニ中華民國人民ト外国人民ト合資
辦鉱スルニハ先ツ合同草案ヲ鉱務監督署長ニ呈シテ農商總
長ニ転呈シ其ノ許可ヲ經テ始メテ調印スヘシトノ字句アリ
今其文意ヲ細釋スルニ会得スヘキ要点三アリ

一、中外人ノ合資辦鉱ハ契約ヲ調印シタル後始メテ合辦ノ
資格ヲ生ス

二、合辦ノ資格ナキモノハ鉱業権ヲ取得スルノ權ナシ

三、探鉱(試掘)ト採鉱(採掘)トヲ問ハス其合辦契約ハ
必ス鉱務監督署ヨリ農商總長ニ上申シ其許可ヲ經テ始メ
テ調印スル事ヲ得

是レ各監督署長ハ鉱業條例第二十五条ノ規定ニ依リ探鉱
(試掘)ヲ許可スルノ權アリト雖モ中外人共同申請ノ探鉱

總領事 落合 謙太郎(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

本月二十七日附ヲ以テ当地交渉員ヨリ別紙写ノ通り第二区
鉱務監督署ヨリ各国領事宛照会アリタキ旨請求アリタリト
テ外國人ガ支那人ト合資開鉱セントスル者ハ鉱業條例ニ遵
照スルノ要アルモ該條例ハ对内法タルヲ以テ外人ニシテ或
ハ之ヲ周知セザルモノアルベク又奸商ノ私ニ外人ト結ンデ
規定ノ手續ヲ經ズ該條例ニ違背スルモノアリ監督署ニ於テ
ハ之等奸商ヲ処罰スベク延テ外人ガ私ニ投下セル資財亦之
ニヨリ損失ヲ受クルニ至ルベキモ條例ノ規定ニ從ヒ相当ノ
手續ヲ經ザルモノニシテ前記処罰ニ起因シ被リタル損害ハ
其如何ナルモノナルヲ問ハズ支那政府ニ於テ決シテ其責ニ
任ゼザルニ付右預メ声明スル旨照会致シ越シ候処当省ニ於
テハ在留本邦人ガ支那人ト共ニ種々ノ形式ヲ以テ鉱山業ニ
從フモノ尠ナカラズ該條例ニ從ヒ正式ニ願出ルモノモ有之
候ヘ共亦正式合辦事業ノ手續ノ煩ニ堪ヘズ或ハ對手支那人
ノ都合等ヨリシテ出坑鉱物一手買受ノ約ヲ為シ或ハ資金ヲ
貸与シ出坑物ノ若干部ヲ以テ之レガ償還ニ充ツル等ノ形式
ヲ執リ居ル者アリテ正式ノ合資經營ト見做スベカラザルモ

(試掘)ヲ許可スルノ權ナキヲ云フ茲ニ誤解ヲ予防センカ
為特ニ其解釈ヲ明白ニス各監督署長ハ今後中外人ノ合資ヲ
以テ試掘ヲ稟請スル場合ハ先ツ契約ヲ農商部ニ送附シ其許
可ヲ受クヘシ直接ニ登録シテ許可証ヲ下附スルコトヲ許サ
ス云々

農商總長 張 謐

第一、二、三、四、七各区鉱務監督署長宛

中華民國三年十月二日

二四六 十月二十九日

在奉天落合總領事ヨリ
加藤外務大臣宛

外國人ガ中国人ト鉱山合辦ノ場合鉱山條例ヲ
遵守スル要アル旨ノ第二區鉱務監督署聲明ニ
付請訓ノ件

附屬書

十月二十七日附祝奉天交渉員ヨリ在奉天落合總
領事宛照会写

右鉱務監督署聲明

公第二〇二号

(十一月四日接受)

大正三年十月二十九日

在奉天

ノ亦尠ナカラザル状態ニ候処之レ等モ一併漫然合辦ト称ス
ルコトアリ而カモ事實ハ正式合辦經營ニアラザル故ヲ以テ
鉱業條例ニ從ヒ成規ノ手續ヲ為サル次第ナル処斯ル場合
ニ支那人側ヲ処罰シ一方本邦人側ニ於ケル損害救済ノ途無
キガ如キ事出来セバ甚面白カラズ尤モ鉱務監督署ハ本年五
月長春ニ設立セラレタル以来モ礦山ノ經營者ニ於テ成規ノ
手續ヲ成サバルモノ尠ナカラザル有様ナルヲ以テ之ガ反省
ヲ促サントスルノ趣意ハ可有之ト解セラル、モ此際右声明
ヲ默過スルトキハ他日問題ノ起リタル場合不利益ノコト無
キヲ保セザルヲ以テ右ニ所謂鉱業條例ハ未ダ公然承認セル
モノニアラザルコト及本邦人ニシテ該條例規定ニ適合セザ
ル形式ヲ以テ鉱業ニ關係セルコトアル場合ニ其權利如何ハ
一々ノ場合ニ付公平ニ交渉ノ上解決スベク独リ支那官憲ノ
意見又ハ該鉱業條例違反ノ理由ヲ以テ本邦人ノ被ルコトア
ルベキ損害ヲ無視スルガ如キコトハ当方ノ承認スル能ハザ
ル旨回答シ置クコト可然ト思考致サレ候ニ付テハ右様取計
可然哉何分ノ儀御回訓相仰度此段及請訓候 敬具

追テ第二區監督署ハ本年五月長春ニ設立セラレタルモ
本月二十六日公布ノ修正鉱務監督署分区規則ニ從ヒ今般

当地小北門旗務署内ニ移転シ来リ候条為念申添候
(附屬書)

十月二十七日附祝奉天交渉員ヨリ在奉天落合

總領事宛照會寫

照會 外字六一號

爲照會事十月二十二日准第二區礦務監督署咨開竊查中外合股辦礦一切程序礦業條例載之甚詳倘能切實遵守洵足以擴利源而遏流弊乃近來中外礦商遵照條例呈請合辦者固不乏人而奸商私結外人并不聲明合股者亦所難免查礦業條例經

大總統以教令公布本係對内法令外國商民或不能週知至中華民國人民以辦礦爲業者應有遵守之義務即令與外人合夥辦礦亦應遵照條例商明外人妥訂合同提出證書呈候核奪若私結外人是對外人一方面有失信義即按之條例所規定寔大相違背一經本署查出按照條例第九章罰則各條辦理將外人資財亦因之而受損失本署爲鄭重法令體恤外商起見亟應咨達貴署煩爲轉知駐奉各國領事轉飭各國商民知照以後外人願與中華民國人民合股辦礦既爲條例所許自極歡迎惟應遵照礦業條例第四條及施行細則第七條辦理倘偏信奸商術騙之

計并不明訂合同提出證書經由本署呈請

農商總長核准則是自貽伊戚甘受愚弄除本國奸商查明照例

處罰外至外人私投資財無論如何損失中國政府決不負責爰

爲預先聲明藉免日後交涉相應備文咨請貴署希即查照轉知

實効公誼等因准此除分行外相應照會

貴總領事查照此照會

大日本駐奉總領事落合

署理外交部特派奉天交涉員祝瀛元

中華民國三年十月二十七日

(右和訳文)

外字第六一號照會訳文

以書翰致啓上候陳者本月二十二日第二區礦務監督署ヨリ照會有之候処ニ拠レバ中外合資礦山採掘ニ関スル一切ノ手續ハ鉱業條例ニ詳細規定モアリ之ヲ確実ニ遵守セバ洵ニ以テ利源ヲ開キ流弊ヲ杜絶スルニ足ル乃チ近來中外礦山商人ガ右條例ニ遵照シ合辦ヲ申請スルモノ固ヨリ少ナカラズ而カモ奸商アリ私カニ外人ト結托シテ並ニ合資ヲ声明セザルモノアルハ免カレ難キ処タリ查スルニ鉱業條例ハ大總統力教令ヲ以テ公布セラレタルモノナルモ本來對内法令ニシテ外

リ上記ノ如ク照會ノ上以テ公誼ヲ全フセラレンコトヲ希望致シ候云々ト照會越有之候条此ニ及御照會候ニ付前陳ノ通り御取計相成度此段照會得貴意候

二四七 十一月二十五日

加藤外務大臣ヨリ
在奉天落合總領事宛

中国新鉱業条例遵守方ニ関スル第二區鉱務監

督署申出ニ付回訓ノ件

政送第一三七号

本件ニ関シ十月二十九日附貴信ヲ以テ御請訓ノ趣聞悉右ハ貴見通り御取計相成差支無之候条右様御承知相成度此段申進候也

附 桃冲鉄山ト鉄鉱国有問題

二四八

十月十日

倉知中日実業副總裁ヨリ
小池政務局長宛

中日実業会社及裕繁公司間ニ安徽省桃冲鉄山

鉱石買取契約成立ノ件

大正三年十月十日